

令和5年度 **研究紀要** 第50集

生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築

巻 頭 言.....校長 前原 和明

第1章 研究の概要.....1

第2章 授業づくりの実際

1 小学部 授業づくりの実際5

2 中学部 授業づくりの実際15

3 高等部 授業づくりの実際25

第3章 アンケート調査の結果

1 保護者アンケートの結果34

2 卒業生アンケートの結果37

3 アンケート調査結果の考察40

第4章 研究のまとめ

1 成果と今後に向けて.....41

2 公開研究協議会の記録.....43

あ と が き.....副校長 松井 智子

研 究 同 人

研究紀要発刊にあたって

校長 前原和明

附属特別支援学校では、本年度より、「生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり～児童生徒の夢や願いを基点とした『わかはとシステム』の構築～」という新たな2年間の研究を開始しました。この研究は、平成29年度の「私の応援計画」の研究から、令和元年度の「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」へと至り、継続して取り組み続けてきた「生涯学習」を主題としたものです。

さて、この「生涯学習」という言葉を聞いた際に、どのようなイメージをもたれたのでしょうか？

ある人にとっては、社会人の生涯にわたる就労と学習の循環である「リカレント教育 (Recurrent Education)」や職業能力の再開発・再教育を指す「リスキリング (Reskilling)」を想起されるかもしれません。この場合、特別支援教育と「生涯学習」の関連性について疑問をもたれる場合もあるかもしれません。また、別の人にとっては、スポーツや芸術などの余暇的なことの充実をイメージされるかもしれません。このように、この「生涯学習」は、様々なイメージを喚起する言葉です。

本研究では、特に「生涯学習力」という言葉を用いて研究に取り組んでいます。この「生涯学習力」は、「主体的にヒト、モノ、コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と、本研究では定義をし、児童生徒の教育実践に反映をすることを目指しています。この定義から私が考えたことは、私たちの人としての活動すべては、「学び」に基づくものであり、「学び」という切り口で社会参加を考えることは、学校在学中に終わらず、児童生徒の生涯にわたる発達に大きく寄与する可能性があるということです。このように、本校の「生涯学習力」に焦点を当てた研究は、児童・生徒の主体的な社会参加を実現するための力の育成だけでなく、卒業後に主体的に社会参画を果たしていく個人となることを視野に入れた教育実践ということを強く意識したテーマとなっています。

研究初年度である令和5年度の研究では、先行する前年度までの研究で整理してきた「わかはとモデル」の視点を方法として用い、学校における「生涯学習力」を高めるための授業づくりのための仕組みの構築に実践を通じて取り組んできました。研究では、共同研究者としてご指導いただきました秋田県総合教育センター 進藤拓歩先生、島津憲司先生、秋田県教育庁中央教育事務所 高橋基裕先生、秋田大学教育文化学部 鈴木徹先生、谷村佳則先生、藤井慶博先生、そして、秋田大学名誉教授 武田篤先生など多くの先生方にお世話になりました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

最後に、本校の研究は、「私の応援計画」、「わかはとモデル」、「わかはとシステム」など、独自の言葉を使用することに特徴があります。これらの言葉は、どうしても表現したい本校の特色やこれまで研究に携わってきた本校教員の願う大切な意味を込めたためです。独自の言葉ではありますが、これらの言葉は、児童生徒を中心においた実践を展開している多くの先生方との間で共通理解できる言葉となっているはずです。これまでの研究紀要と本研究紀要を読んでいただけると、このことをご理解いただけることと思います。

研究の最終到達点は、目の前で教育を受けている児童生徒の成長発達です。この本研究紀要を通じて、多くの方々と児童生徒の教育の実践知を共有し、更なる実践が広がっていくことを強く願っております。

第1章 研究の概要





生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり

～児童生徒の夢や願いを基点とした「わかはとシステム」の構築～（1年次／2年計画）

研究の概要

1 研究主題設定の理由

（1）本校の研究の歩み

本校では、令和元年度から「生涯学習力」に焦点を当てた研究を進めてきた（図1）。令和元年度、令和2年度の2年間は、「生涯学習力」を「主体的にヒト・モノ・コトに関わり生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と定義し、「生涯学習力」を高める教育課程の編成に向けて取り組んだ。令和3

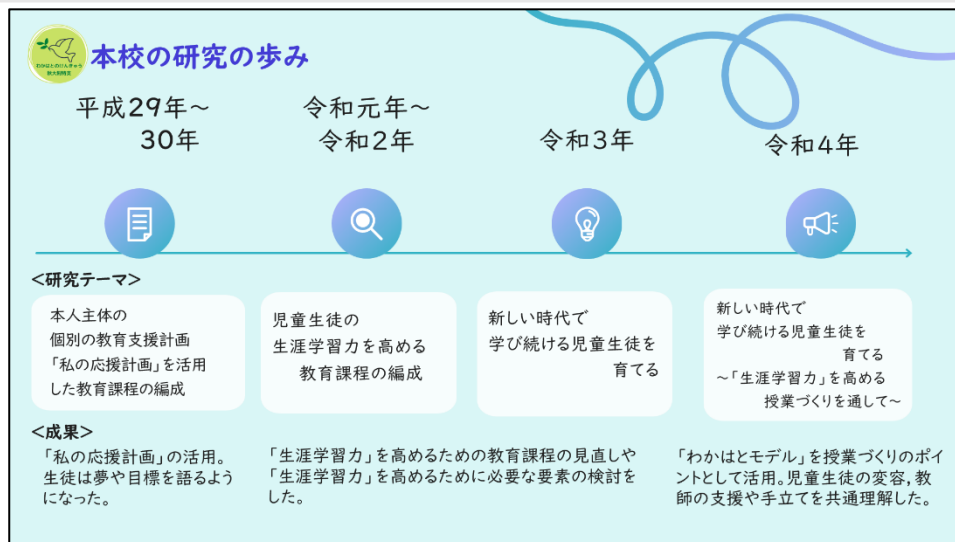


図1 本校の研究の歩み

年度からは、児童生徒の「生涯学習力」を高めるための基盤整備について3つのワーキンググループを立ち上げ、「生涯学習力」を高めるために必要な要素や学習内容を検討した。さらに令和4年度は、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて取り組み、授業づくりの視点として「生涯学習力」を高めるための要素となる「わかはとモデル」を作成した。この「わかはとモデル」を活用して学部間のつながりを考慮した単元構想や指導内容を検討したり、児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容を見取ったりした。特に、学部を越えて意見交換を行う「つながりミーティング」において「わかはとモデル」を活用したことで、教師は各学部の取組や児童生徒の成長過程について理解を深めることができた。

本校の特徴的な取組である「私の応援計画」（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2018）は、その作成を通して児童生徒自身が学びの主体であることを自覚できるよう、児童生徒が自分の意思を表現できる環境を構築し、児童生徒たちの「思い」「願い」「夢」を大切にしたい個別的教育支援計画である。平成29年度から30年度までの2カ年、「本人主体の個別的教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」を研究主題として研究に取り組んでいる（図1）。令和4年度は、この「私の応援計画」を基盤としながら、「わかはとモデル」を活用して「生涯学習力」を高める授業づくりを行ってきた。児童生徒たちの「思い」や「願い」、「夢」から生涯にわたって学び続ける姿をイメージしつつ、「わかはとモデル」を活用して児童生徒の「今ここにある姿」を見取ってきたことで、教師は児童生徒の「分かった」「できた」といった学びの結果だけではなく、授業の中で「児童生徒がどのように学んだか」「児童生徒が学びの結果から何を得たか」といったところに目を向けられるようになった。そして、児童生徒の学びが学校・家庭・地域の中でどう役立っているのか、どうつながっていくのかを理解することが、「生涯学習力」を高める授業づくりを進める上で重要であると認識した。一方で、毎年の職員の異動により新しく代わっていく職員が「私の応援計画」の目的や意図、その意義の押さえまでは十分に引き継がれずに、活用することのみが継続している現状もみられる。

（2）令和4年度の成果

学部ごとの「生涯学習力」を高める授業づくりのポイント、児童生徒の変容、教師の関わり方の変容については、次の通りである。

「生涯学習力」を高める授業づくり

- 【小学部】余暇につながるアイデアを出し合う授業づくり
- 【中学部】生徒同士で解決方法を考えさせる授業づくり
- 【高等部】卒業後の学びを見据えた授業づくり

児童生徒の変容

- 【小学部】エンジョイタイム（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2023）を楽しみにし、初めての活動でもやってみようとする姿や、自分なりの楽しさを見付ける姿などが見られるようになった。
- 【中学部】生活単元学習の授業を通して友達とチャレンジする姿や、自信をもって学級外の友達へ発表する姿、失敗してもまた挑戦する姿、分からないことは聞いたり、調べたりする姿などが見られるようになった。
- 【高等部】Dスタディ（秋田大学附属特別支援学校研究紀要. 2022）の授業を通して自分から発信する姿や、いろいろな解決方法があることを知る姿、自分で解決できない場面で誰かに頼る姿など、生徒たち同士で必要な手段を使って解決しようとする姿が増えた。

教師の関わり方の変容

教師が児童生徒に正解を提示するのではなく、寄り添うスタンスで支援し、児童生徒の主体性に任せたり、考えさせたりする場面を設定するようになり、授業のスタイルが変化した。

（3）令和4年度の課題と令和5年度を取組

学校生活の中の「今」と「将来」について職員が見据え、さらには卒業後の「将来」をつなぐことができるような授業実践が必要であると考え、「生涯学習力」の研究を推進してきたことで、「生涯学習力」の素地を高めるためにはどうしたらよいかを検討、授業づくりに反映し、少しずつ「生涯学習力」を高めるための授業スタイルや教師の支援方法などが明らかになってきたが、まだ場面が限定的であったり、つながりが見えづらかったりする課題がある。

これらの課題を解決するために、以下の方策を考えた。

- ・授業づくりに更に活用できるように「わかはとモデル」の分析と改善を行い、再提案する。
- ・「私の応援計画」に「わかはとモデル」の要素を取り入れ、面談に活用できるようにする。
- ・学校の授業の「今」の実践がどの「将来」につながっているか、関係性をより大事にする。
- ・「生涯学習力」について保護者に理解してもらえるよう、定期的に情報提供、共有を図る。
- ・卒業生が本校で学んだことをどのように生かし、「生涯学習力」を発揮しているのか検証する。

以上のことから、これまでの研究成果を基に、卒業後も学び続けようとしたり、自分から学ぼうとしたりする意欲を育み、生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくりを通して児童生徒の「生涯学習力」の広がりや深まりの検証をしたいと思い、本主題を設定した。

特に、1年次はこれまでの研究の成果をつなげる「わかはとシステム」の構築を目指す。この「わかはとシステム」は、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すとともに、APDCAサイクル（PDC AサイクルにA：アセスメントを含めたもの）で検証し、改善していくものである（図2）。

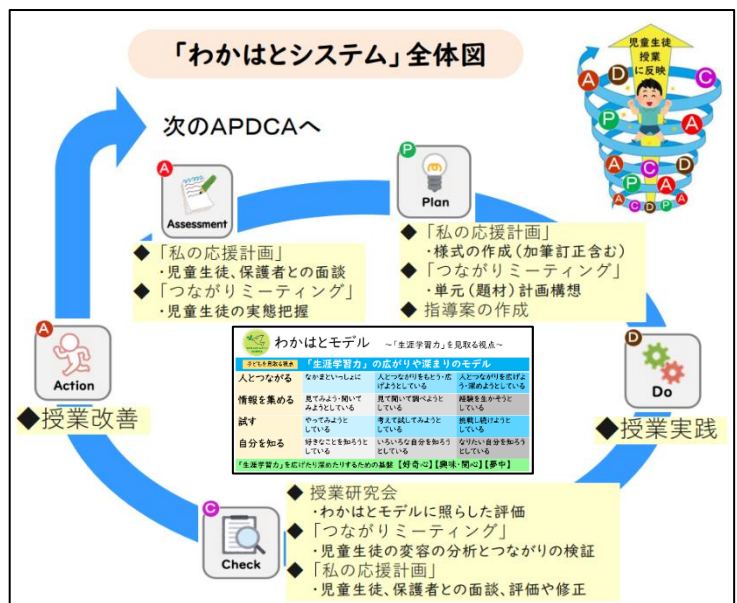


図2 わかはとシステム関連図

2 研究の目的

これまで、児童生徒の生涯にわたる豊かな学びに向け、「生涯学習力」に関する実践研究を推進し、「生涯学習力」を高めるための授業実践をしてきた。しかし、日々の授業における児童生徒の学びの継続性や関連性についての検証は限定的であり、「生涯学習力」が高まったと示すための検証については不十分であった。このことから、日々の授業を通じた児童生徒の姿が、どのようにヒト・モノ・コトにつながっていき変容したのかについて空間軸と時間軸で見取っていくことで、児童生徒の「生涯学習力」の高まりに寄与していることを明らかにしたいと考えた。

3 研究の内容と方法

上記の目的を達成するために、2年計画で以下の内容と方法を設定した。

(1) 令和5年度

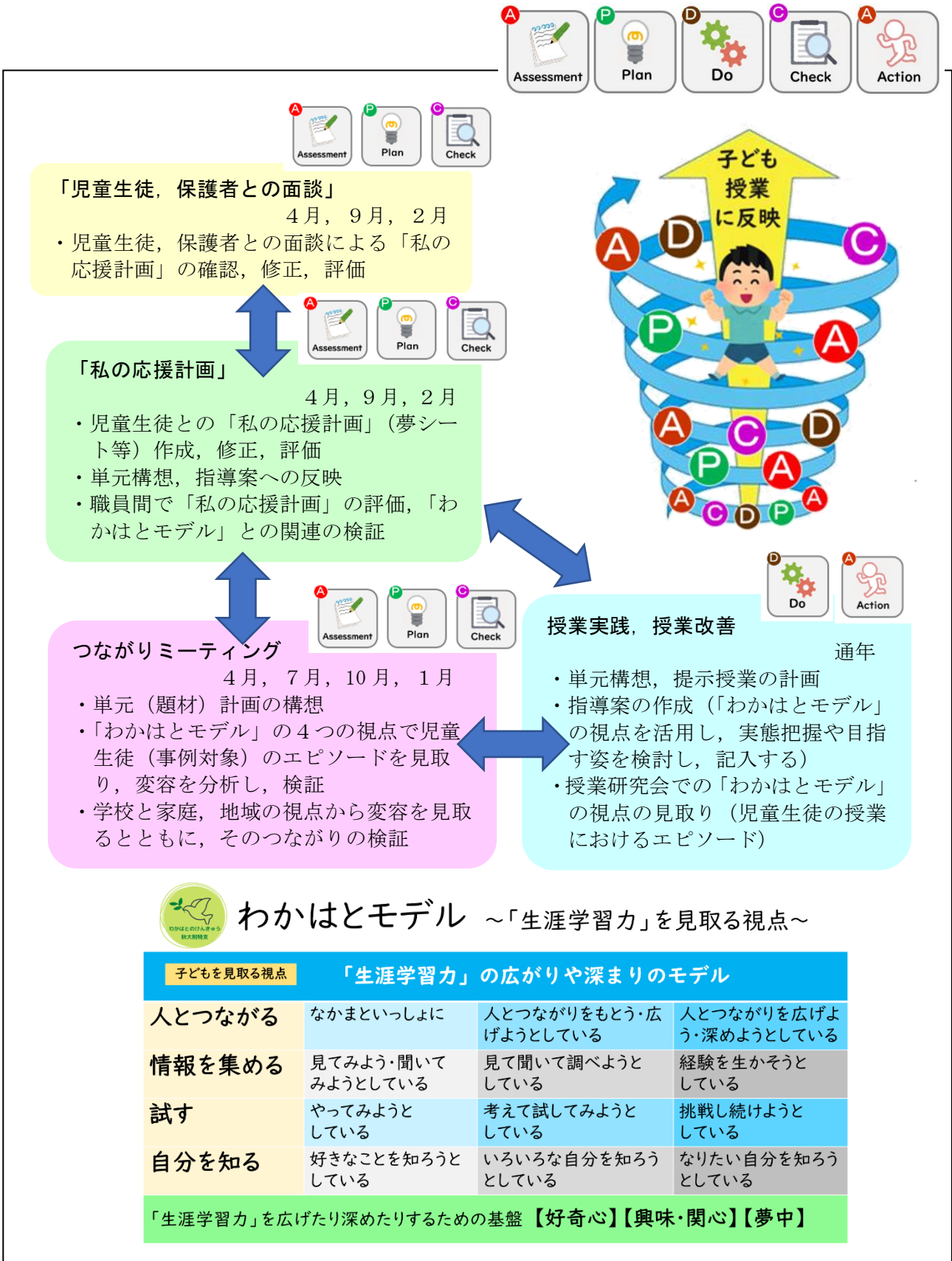
- ①「わかはとモデル」の分析と改善
 - ・「生涯学習力」を高めるための要素として作成した「わかはとモデル」を『「生涯学習力」を見取る視点』として児童生徒の実態把握や生涯学習力の高まりを見取る際に活用できるように、更に分析と改善を図る。
- ②「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用
 - ・教師側が「わかはとモデル」の視点を持ちながら、「私の応援計画」の児童生徒との面談を行う。
- ③校内外のつながり、卒業後のつながりの検証
 - ・「つながりミーティング」を実施し、学部間のつながり、学部を越えたつながりを全校縦割りで検討や検証、情報の共有をする。
 - ・「障害のある方の豊かな学び」とは、どのようなことなのかを卒業生とその保護者に対するアンケート調査から明らかにする（アンケート調査Ⅰの実施）。
- ④家庭や地域との連携
 - ・家庭や地域に対して定期的に情報提供等を行い、「生涯学習力」について理解を図るようにする。
 - ・保護者に対して生涯にわたる豊かな学びに関するアンケート調査を実施する。
- ⑤「エピソードシート」の活用
 - ・単元終了ごとに「エピソードシート」を作成し、単元の振り返りを丁寧に行い、児童生徒一人一人の「生涯学習力」がどのような場面で広がっているか様々な視点から見取るようにする。

(2) 令和6年度

- ①「わかはとシステム」の活用と改善
 - ・「私の応援計画」、「わかはとモデル」、「つながりミーティング」と授業実践がAPDCAサイクルでつながり、機能しているかを検証する。また、教育課程の編成に向けて必要に応じて教育資料の修正や改善を図る。
- ②「エピソードシート」の分析と改善
 - ・「生涯学習力」がどのように広がっているか分析し、必要に応じて改善する。
- ③「私の応援計画」への「わかはとモデル」の視点活用
 - ・「わかはとモデル」の視点を活用して「私の応援計画」を整理する。
- ④生涯にわたる豊かな学び探求（アンケート調査Ⅱの実施）
 - ・進路先である事業所や福祉施設などから、障害のある方の豊かな生活や学びの在り方、課題等について聞き取り、分析をする。

4 わかはとシステムの関連図

「わかはとシステム」は、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すとともに、APDCAサイクルで検証し、改善していくものである。以下は、「わかはとシステム」の関連図を示したものである。



わかはとモデル ～「生涯学習力」を見取る視点～

子どもを見取る視点	「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル		
人とつながる	なかまといっしょに	人とつながりをもとう・広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたい自分を知ろうとしている

「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤 【好奇心】【興味・関心】【夢中】

図3 わかはとシステム関連図

第2章 授業づくりの実際



小学部 授業づくりの実際

1 はじめに

(1) 「エンジョイタイム」における取組

小学部では、令和3年度から「エンジョイタイム」*を新設し、令和4年度より生活単元学習の中に位置付け、実施してきた。小学部は「生涯学習力」の素地を育む段階である。「エンジョイタイム」では、「わかはとモデル」を図1のように捉え、「夢中」と「好奇心」の要素の膨らみを大切に授業づくりを行った。「エンジョイタイム」において教師は、児童の活動の様子からその内面の動きを推察し、「興味・関心」の対象やその広がりを見取るように心掛けた。

「わかはとモデル」を活用した「エンジョイタイム」での授業づくりを通して、小学部から高等部までの児童生徒の姿のつながりが顕在化するとともに、児童に寄り添った視点で、目の前の児童の姿と「生涯学習力」のつながりを改めて認識することができた。そして、得られた知見を基に、「エンジョイタイム」以外の場面でも活用できる「生涯学習力」を見取る視点をより具体的に構築すること、個別の教育支援計画である「私の応援計画」と「生涯学習力」の関連を整えることが、課題として挙げられた。

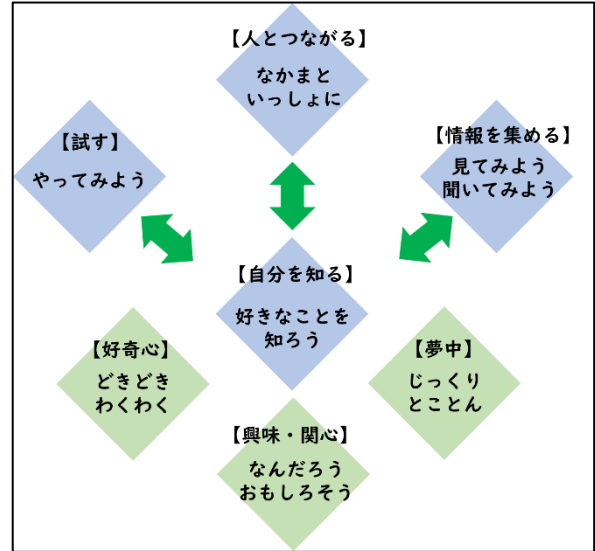


図1 小学部における「わかはとモデル」の捉え

(2) 本年度の研究

昨年度の研究で挙げられた課題から、本年度は「エンジョイタイム」から生活単元学習を対象を広げて、児童の夢や願い（「私の応援計画」）を基点にした生活単元学習の授業づくりの流れについて検討、整理した。また、「私の応援計画」の作成や単元計画、授業評価など様々な場面において、「わかはとモデル」を活用して児童の姿を見取ることで、「わかはとモデル」が授業づくりの視点ではなく“児童の姿を見取る視点”として機能することを目指した。

* 「エンジョイタイム」

安心できる環境において、自分の得意な関わり方で、ヒト・モノ・コトに関わる経験を積み重ね、「生涯学習力」の素地を育む時間。興味・関心を広げたり、深めたりすること、自分の好きなモノやコトを知ることが、主なねらいである。

2 「私の応援計画」の授業への反映

(1) 児童の姿の見取りと共有

① 「わかはとモデル」を活用した児童の見取り

児童の夢や願いをくみ取るための個別面談において、「わかはとモデル」の視点をういながら児童と対話をした。児童から出た発言や行動からくみ取った夢や願いを言語化したり具体化したりし、児童の思いが「わかはとモデル」のどの視点と関連するのかを分析・整理し、確認した。また、個別面談での見取りを基に、一人一人の思いを各学級の実態に合わせた様式に視覚化し（図2）、教室内に掲示した。「わかはとモデル」の視点で図表化したり、空間軸と時間軸でカテゴリー化したりして、日々の生活の中で新たな思いの芽生えがあったときには適宜追加するなど、児童が自分の思いを分かりやすく認知できるように工夫した。




図2 視覚化した児童の姿

②小学部職員での共有の機会の設定

「わかはとシステム」による授業づくりを進めるに当たり、児童の夢や願い、自立活動のねらい、児童の思いにつながるような日々のエピソードなどを、小学部職員全員で共有する機会を設定した。一人一人の児童について話し合ったことで、入学してからの育ちや変容に改めて気付いたり、他学級の教師から見た児童の姿を認識したりするなど、多角的な視点で児童の実態を捉え直すことにつながり、児童への理解が深まった。また、小学部職員全員で児童の姿を共有したことで、横のつながりをもって一人一人の児童と関わる基盤をつくることができた。

③つながりミーティングでの事例検討

学部を越えた縦割りの職員グループを編成して行ったつながりミーティングでは、単元の内容や年間の構想について検討した他、対象児童を設定し、小中高のつながりの視点で生涯学習力について確認・検討した。児童の実態を「わかはとモデル」の視点で見取り（図3）、今もっている力と今後高まっていくと予想される力について意見交換した。他学部の職員を交えて話し合うことで、児童の育ちの過程や将来の予想される姿など、縦のつながりで児童の姿を捉えることができた。

つながりミーティングⅡ		事例対象の児童を設定し、小中高のつながりの視点で生涯学習力について確認・検討。
事例対象	B児の実態	
好奇心・興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・お話が大好き。特に『おさるのジョージ』が好き。 ・ダンスや音楽が好き。 ・初めてのことは苦手。 ・なんでもやりたくて手を挙げる。でも、少し恥ずかしい。 ・友達のお世話をしたい。 	
人とつながる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達にはリーダー的な関わりをすることが多い。 ・友達のお世話がしたい。 ・先生に見てほしい。「できたよ！見て見て！」 	
自分を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で楽しかったことを家で話す。 	

（2）「私の応援計画」の授業づくりへの反映

図3 対象児童についての資料(抜粋)

①授業づくりの流れの作成（資料1）

児童の夢や願いを基点にした授業づくりをシステム化するため、授業づくりの流れを策定した。APDCAサイクルのA（アセスメント）として、「私の応援計画」に記載されている児童の夢や願いを抽出して、始めに据えた。そこに、保護者の思い、教師の願いを加味し、「わかはとモデル」の視点での目指す姿を設定した。この目指す姿を実現するために、どのような単元を計画するのか、また、単元を通してどのような知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を育てていくのかを、P（プラン）として構想し、実践後にエピソードシート（資料2）を用いた評価をC（チェック）として行うこととした。

②つながりミーティングを活用した授業づくり（図4）

授業づくりの流れに沿って構想した単元計画について、つながりミーティングをA（アセスメント）とC（チェック）の機会として活用した。つながりミーティングⅠでは児童の夢や願いから出発して単元を計画するまでの流れに齟齬はないかを確認するとともに、単元を通してどのような力を育むことができるのかや、考えられる手立て等について意見交換を行った。また、授業づくりを行う上で悩んでいることなどについて意見を出し合い、得られたアイデアの広がりやP（計画）として単元計画の修正や授業づくりに役立てた。つながりミーティングⅡ及びⅢでは、設定した対象児童の実態や授業でのエピソードによる姿を、「わかはとモデル」の視点を用いて整理した。そして、整理した児童の姿から次の単元の授業づくりに向けて大事にしたいことを明らかにし、P（計画）として位置付けた。つながりミーティングⅣでは、年間の振り返りと児童の変容を分析し、次年度に向けた方向性を検討した。

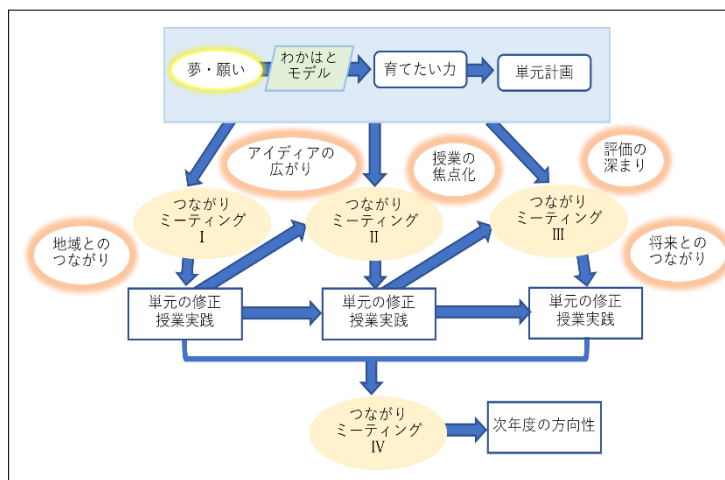


図4 授業づくりと「つながりミーティング」の関連

3 授業の実際

(1) あおば学級 (5・6年生)「レッツゴーあおば～先生たちのおすすめスポットに出掛けよう～」

(全校授業研究会：6月)

①単元の概要

あおば学級の児童の「私の応援計画」(図5)には、「友達や先生と一緒にいろいろなことに挑戦してみたい」「いろいろなスポーツに挑戦したい」「体を動かしたり、感触を楽しんだりしながら好きな遊びをしたい」「バスに乗って出掛けたい」「竿燈の太鼓をやってみたい」などの願いが記載されている。3名それぞれの願いから、あおば学級の児童の夢や願いを、大まかに「お出掛けしたい」「友達と仲良く過ごしたい」「体を動かしたい」にクローズアップし、授業づくりの基点においた。この児童の夢や願いが叶うためにはどのような力が身に付いたらよいかを、「わかはとモデル」から導き出し、単元計画を立てる上での基盤とした。そこから、身近な地域の施設等に出掛け、体験したことをまとめる「レッツゴーあおば」の単元を計画した。

つながりミーティングⅠでは、場所は知っているが「行ってみたい」という気持ちが薄いという児童の姿から、出掛ける目的をもつことが必要であることを確認した。また、「情報を集める」「人とつながる」視点に重点を置きながら、基盤となる「興味・関心」「好奇心」の視点を高めていくための手立てについて意見交換を行った。




将来の生活・現在の生活に関する願い	
本人の願い	保護者・家族の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・友達や先生と一緒にいろいろなことに挑戦してみたい。 ・身近な教師や友達にそばで励ましてほしい。 ・仕事を頼まれたり、褒められたりするとうれしい。 ・ダンスや追いかけてっこをして体を動かしたい。 ・いろいろなスポーツに挑戦したい。 ・ボールなどを使って体を動かしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でできるようになってほしい ・自分が思っていることを相手に伝えられるようになってほしい。 ・自分の名前を漢字で書けるようになってほしい。 ・足し算や引き算ができるようになってほしい。 ・なんでも挑戦してほしい。

図5 私の応援計画(抜粋)の例

②授業の概要

児童が「行ってみたい」という気持ちをもてるように、身近な教師におすすめスポットをインタビューし、実際に行って体験したことを教えてくれた教師に報告する活動を設定した。授業づくりに当たり、「わかはとモデル」と照らし合わせながら期待する児童の変容をイメージし、次のような仕掛けを工夫した。

目的をもって「行きたい」と思えるようにするための仕掛け

		<p>○身近な教師へのインタビュー</p>
<p>「行ってきたら教えてね」と伝えることで、その後の展開への必然性につなげる。</p>		<p>○体験活動</p>
		<p>児童の興味・関心に即した地域の施設を選定し、五感を活用した体験活動を設定する。</p>
		<p>○振り返りでの思いの表出</p>
<p>思いを呼び起こしたり、表出したりするために、校外学習での様子をまとめた動画を活用したり、訪問先にちなんだ制作物を作る活動を設定したりする。</p>		

③全校授業研究会より

全校授業研究会では、校外学習で出掛けたねぶり流し館での様子を振り返り、制作活動を通して思いを表出する活動を設定した。学習したことを具体的に想起できるように、動画を見て振り返ったり、楽しかったことを写真の中から選んだりし、お気に入りの写真を用いて「思い出竿燈」を制作した。これらの活動に取り組む中で出てきた児童の発言や行動を、タブレット端末を用いて可視化(図6)し、児童が自分の思いを実感しながら振り返ることができるようにした。

協議では、「わかはとモデル」を活用して児童の学びを見取り、効果的だった手立てや改善点について検討した。友達の様子を気にするような姿が多く見られたこと、教師や集団への安心感が、積極的に発言しようとする姿につながっていたことに、特に多くの意見が出された。また、発達段階を踏まえたねらいの在り方や「わかはとモデル」の視点の妥当性についても話題にあがった。協議の概要を図7のようにまとめた。

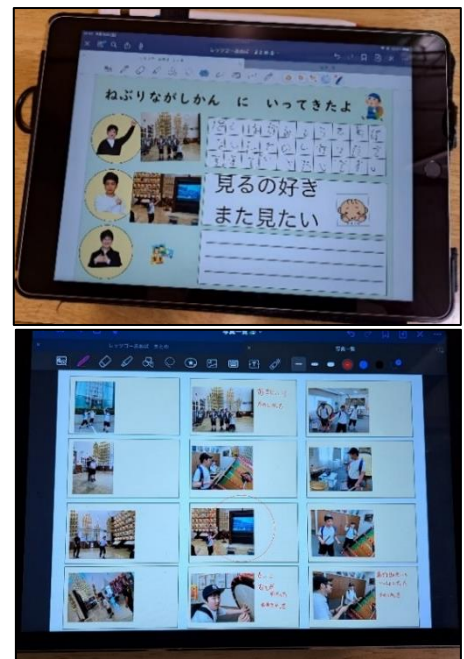


図6 児童の思いの可視化

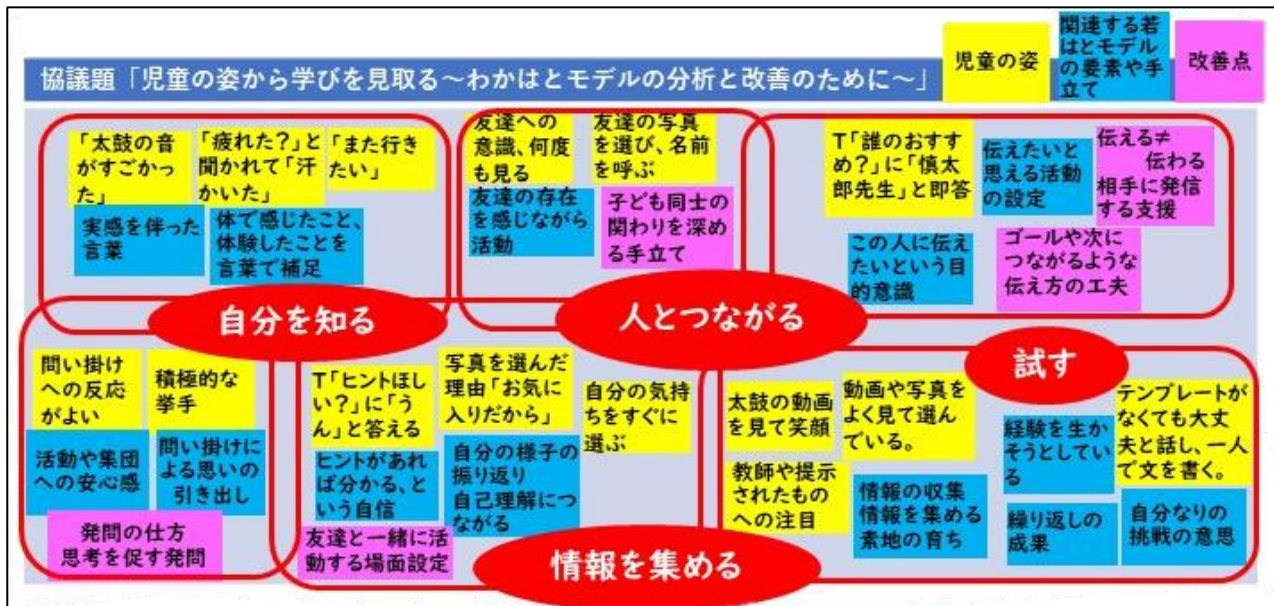


図7 「わかはとモデル」を活用した協議

【協議のまとめ】

○「人とのつながり」を高めるために

- ・友達の様子を気にする様な姿が多く見られたことから、活動によってはペアにするなど、教師が介入しなくても子ども同士が関わりを深められるような場面設定や手立てがあるとよい。
- ・“伝えること”と“伝わること”は違う。好きなことを知る発達段階では、思いを表現することがねらいでもよい。徐々に相手に発信するための支援になっていくとよい。

○「自分を知る」を高めるために

- ・積極的に答えようとする姿から、発問を工夫することで児童が考えて言葉を表出する機会にしたい。
- ・体験から実感を伴った言葉が生まれる。自分の様子を振り返ることが自己理解につながる。

○「わかはとモデル」のつながり

- ・ヒントがあれば分かるという自信が、積極的な発信につながっていた。「〇〇があればできる」という「自分を知る」ことが「情報を集める」ことにつながり、「試す」姿につながっていくのではないかと。

【講評より】

<p>秋田大学 准教授 鈴木 徹先生</p>	<p>落ち着いた大人っぽい雰囲気の中でしっかりと授業が進んでいた。児童が何を伝えたいのかを明確にすることが大切である。場所だけではなく、行って帰ってくるまでの一連の工程と捉えると、提示する写真も変わるのではないか。子どもたち自身が写真を撮ってみることで、何をどう見ているのかが見えてくる。また、興味・関心が膨らむと、誰かに伝えたいくなる。伝わらない経験をすることで、どうしたら伝わるかを思考する契機になる。実態差による難しさは、何に興味があるのかをよく観察し、配慮していくことが必要である。</p>
<p>県総合教育センター 指導主事 進藤 拓歩先生</p>	<p>児童の最初の感想が、学習活動を経てどう変わるのか、感想の深まりが大切である。教師は振り返ることを重視していたが、児童は制作を重視していた。教師の意図と児童の感じ方を擦り合わせていく必要があった。また、小単元のねらいと単元のねらいがつながっていき、学んだ知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を育む指導計画を立てなければならない。育成すべき資質・能力を明確にし、「わかはとモデル」や「わかはとシステム」を効果的に活用していけるとよい。</p>

(2) ふたば学級(1・2年生)「おはなしふたば～十二支のおはなし～」 (公開研究協議会：1月)

①単元の概要

ふたば学級の児童は、学校生活の入門期段階に当たることから、どの児童にも「教師や友達と仲よく楽しく活動したい」という願いはあるものの、具体的な夢や願いへの広がりはまだ見られない。そこで、児童の好きな絵本の読み聞かせを発展させ、劇遊びや制作などの活動を通して、友達と楽しい活動を共有したり、一緒にやり遂げる達成感を味わったりすることで、「友達と関わりたい」「友達の思いを受け入れよう」というやり取りの素地を育みながら、楽しい経験を重ねて興味・関心を広げていくことを目指した単元を計画することとした。

つながりミーティングⅠでは、児童が安心感の中で活動を楽しめるように、想定できる展開から少しずつ広げていくことや、好きなことを活動のきっかけにすることなどの意見が出された。そして、まずは友達と「場」を共有して遊ぶ「楽しさ」を実感できる授業づくりを行っていくことを確認した。また、そこから「興味・関心」「好奇心」「人とつながる」の視点の高まりを目指すこととした。

②授業の概要

「おはなしふたば」では、音楽を活用した楽しい雰囲気の中でお話遊びをベースにし、動物になりきって動作模倣を楽しんだり、教師と一緒に立体迷路やパズルに挑戦したりした。そして、個から全体につながるような活動や教材を徐々に設定し、物語の登場人物になって役を演じたり、友達と一緒に活動に取り組んだりするなど、遊びの中で学びを積み重ねてきた。「～十二支のおはなし～」では、児童同士が関わり合いながら、主体的、意欲的に活動に取り組めるように、チームに分かれて競争するゲーム遊びを設定し、次のような仕掛けを工夫した。

友達と関わり合いながら、自分から活動に取り組むための仕掛け

		
<p>○意欲的に取り組むために ・一緒に活動する友達やゲームを自分たちで選択・決定する。</p>	<p>○自信をもって取り組むために ・繰り返し同じゲームに取り組んだり、単元の流れを統一したりする。</p>	<p>○関わり合うために ・協力が必要なゲームを用意したり、教師も役を演じて関わりをつないだりする。</p>

③公開研究協議会より

提示授業では、児童が自分たちで選んだ「ひっくり返しゲーム」と「ボール集めゲーム」を、二つのチームに分かれて行った。好きな十二支の動物になり、勝ったチームから「ふたば版十二支」の順番を決めることとした。やり方が分かって友達同士で誘い合いながら活動できるように、「ひっくり返しゲーム」のカードや「ボール集めゲーム」の箱に一人一人の顔写真を貼り、3回周回する速さを競った。また、教師も動物役になって一緒に遊びながら、児童同士の関わりをつないだり、関わりの手本を示したりした。

協議では、授業で見られた児童の姿から、その背景を探り、効果的だった手立てと改善点を挙げるとともに、「わかほとモデル」を基にした生涯学習力とのつながりや高まりについて省察した。友達との関わりについて、一人一人がどのように関わり合っていたのか、多くの姿が見取られ、活発な意見交換が為された。また、終末部での評価の在り方について、特に多くの改善策が挙げられた。



提示授業での様子

【協議のまとめ】

○「人とつながる」の高まり

- ・繰り返しの活動設定や教師の見守る姿勢が、友達を誘う姿、誘い掛けを受け入れて取り組む姿につながっていた。
- ・構造化された場の設定や、関わりをねらった無駄のない教材が、友達の姿に目を向けたり、関わりを生む効果的な仕掛けになったりしていた。
- ・つながりすぎない、代弁しすぎない適度な支援量と、機を捉えた介入が、児童同士の関わりを引き出していた。
- ・大人が手本となる関わり方を示すことで、どのように話したらよいかや、どのような提案をしたらよいか分かって行動していた。関わり方の「情報を集める」ことが「人とつながる」姿につながっていた。

○評価の在り方

- ・関わり方を学び、即時評価されることで、「また関わりたい」という思いが生まれていたのではないかと。
- ・「がんばった」という子どもの思いに沿うような、振り返り場面を設定できるとよい。
- ・ゲームを通して積み重ねた即時評価を、ゲームの事後の振り返りにも活用できるとよい。ねらいの落とし込みと振り返りの方法を工夫することで、評価を充実させたい。

【講評より】

秋田大学 准教授 鈴木 徹先生	今もっている力で挑戦する中で、新しい力が生まれていく。何をどのように学んでいるのかを評価していくことが内面の見取りにつながっていく。行動＝気持ちではない。どのようなところに心が揺らいでいるのかを見取っていくことが大切である。
県総合教育センター 指導主事 進藤 拓歩先生	子どもの行為は同じでも、背景にある意図は一人一人違う。意図をくみ取って関わりをつないでいく必要がある。内面の見取りと併せて、どのような知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を発揮していたか、観点別学習評価によって評価していくことも必要である。

4 まとめ

(1) 児童が学びに向かう授業づくりの実現

児童の夢や願いを授業づくりの出発点とし、夢や願いを叶えるためにはどのような力が必要なのか、「わかはとモデル」による児童の姿の見取りから見出し、単元の計画と授業実践に取り組んできた。そして、つながりミーティングによって「わかはとモデル」を活用しながら児童の具体的な姿を見取り、検証することで単元や授業を振り返って単元計画を修正し、授業改善を行ってきた。このような授業づくりの流れを繰り返すことで、授業づくりのシステムが構築され、児童の夢や願いから授業をつくるプロセスが教師の中に根付いた。授業づくりの基点に児童の思いを置くことで、単元計画や活動設定の根拠が児童にある、より児童が主体となる授業づくりを行うことができた。その結果、児童同士が関わり合いながら、学習活動に主体的に取り組もうとしたり、学んだことや身に付けた力を発揮しながら課題に向かったりする姿につながり、児童が主体的に学びに向かう授業づくりを実現することができた。

(2) 教師による見取りの深まり

「私の応援計画」作成のための児童の実態把握や、つながりミーティング、授業研究会の場等で「わかはとモデル」を活用して児童の姿を見取ってきた。児童の行動の見取りだけではなく、行動の背景にはどのような児童の力が働いているのかや、心の動き、児童が抱える思い、感じていることなど、児童に寄り添いながら内面を見取ろうとする教師の意識が高まった。「わかはとモデル」を児童を見取る視点として活用したことで、目の前の児童の姿を生涯学習力のつながりと関連させながら、より深く見取ることが可能となった。教師による見取りの深まりが、何が児童の行動の源になっているのかを明らかにし、次の期待する姿の体現のために何を大切にするのかを共通理解して授業づくりを進めることにつながった。

(3) 次年度へ向けて

①「私の応援計画」と「わかはとモデル」をつなぐために

「私の応援計画」の作成に当たり、児童と面談する際に「わかはとモデル」の視点を用いて実態把握を行い、身に付けたい力を明らかにして授業づくりにつなげた。しかしながら、「私の応援計画」に「わかはとモデル」を落とし込んでいく難しさがあり、この両者をどのようにつないでいくのかについて検討が必要である。

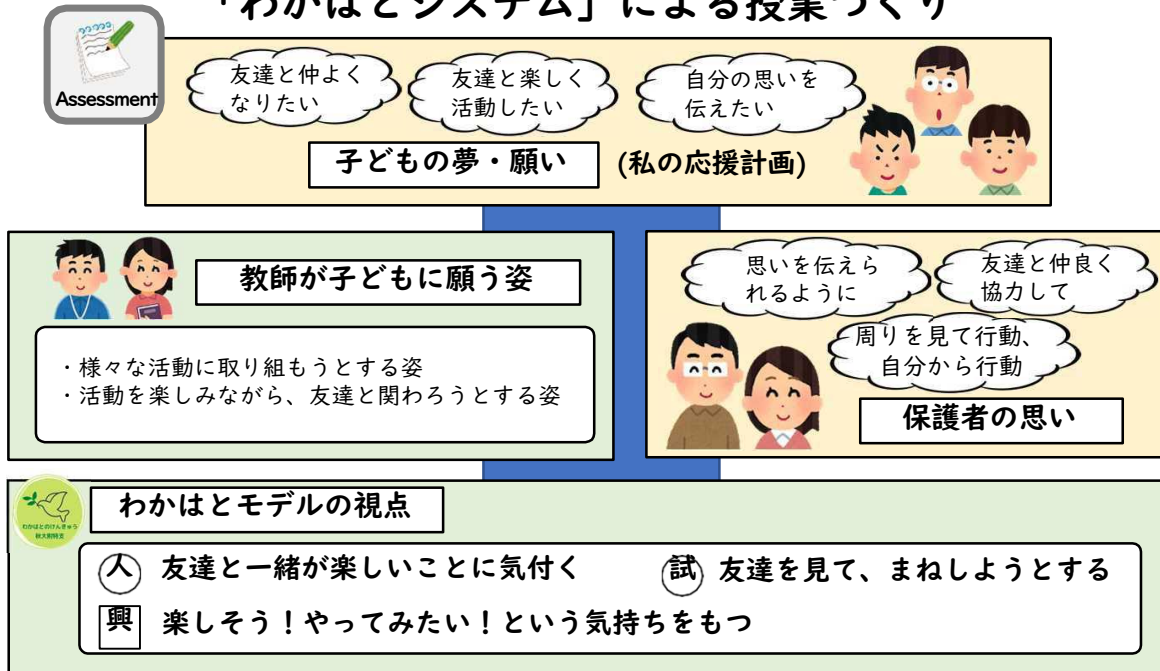
②「わかはとモデル」と「資質・能力」との関連

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編において、「単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るもの」とされている。研究協力者からの講評でも、育成すべき資質・能力を明確にすることや観点別の評価を行うことを助言していただいた。今後は、「わかはとモデル」から見取った児童の身に付けたい力と、育てたい資質・能力の関連について、より明確にするとともに、単元のねらい、授業のねらい、個別のねらいをどのように設定していくのかについて整理していく必要がある。

③子どもの夢や願いに立ち返る評価の在り方と持続可能な評価ツール

児童の夢や願いを基点にした授業づくりのシステムが構築され、児童の姿や授業そのもの、単元について評価するサイクルは確立されたが、基点となった夢や願いに立ち返る評価には至らなかった。授業実践や単元を通して生涯学習力が育まれた結果、児童の姿は夢や願いにどのくらい近付いたのか、学習を積み重ねたことで、児童の夢や願いにどのように影響し、どのように変化したのかなどについての評価の在り方と「わかはとシステム」への位置付けを検討していく必要がある。また、評価のツールとして用いたエピソードシートは記入量が多く、負担感が大きかった。今後は持続可能な評価ツールを工夫していきたい。

「わかはとシステム」による授業づくり



Plan **おはなしふたば**

劇あそびや制作活動で、友達と楽しい活動を共有したり、協力してやり遂げる達成感を味わったりすることを通して、「友達と関わりたい」「友達の思いを受け入れよう」というやり取りの素地につなげる。

【知・技】物語に出てくる物の名前や登場人物が分かる、友達の誘い方を知り、誘って活動する。

【思・表・判】なりたい役を選ぶ、やりたいことややってほしいことを伝える、劇遊びの中で役を演じる。

【学・人】友達と一緒にやってみようとする、自分からやってみようとする。

主な教科等：国語、算数、図画工作、音楽、体育

Assessment **つながりミーティングⅠ** 「わかはとモデル」を用いて、単元の内容や年間の構想について、小中高縦割りの視点で確認・検討。

人とつながる	・分かりやすい関わりのきっかけ、場、役割	・楽しい時間を共有
試す	・一人でも楽しい…。でもみんなとやるのも楽しい。	
自分を知る	・想定できる展開から少しずつ広げていく	
	・興味・関心を探りながら	・好きなことを活動のきっかけにする (ex: 音楽を活用して動きを付けていく)

Plan **学校生活の入門期段階。まずは、友達と“場”を共有して遊ぶことで、「楽しさ」を実感する！** >>> 人 興 好

Do **おはなしふたば** ~できるかな?あたまからつまさきまで~
~はらぺこあおむし~

Action 人 興 好 を膨らませる仕掛け

- ・歌を使った読み聞かせの実施
- ・音楽を活用した活動の設定
- ・友達の様子を見合う発表の場の設定
- ・意欲を喚起する教材の工夫
- ・個から全体につながる活動と教材の設定
- ・音楽を活用した楽しい雰囲気作り



つながりミーティングⅡ

事例対象の児童を設定し、小中高のつながりの視点で生涯学習力について確認・検討。



エピソードの見取り（考察）から



次単元の授業づくりに向けて



人(試) ・教師との関わりをベースに安心感をもち、いろいろなことにチャレンジする。

人 ・伝わるように発信する手段を探る。



自 ・できたことを知る。「これでいいんだ!」と思えるように。



おはなしふたば

～ももたろう～

～ブレーメンのおんがくたい～



人(試)自 を膨らませる仕掛け

・みんなで力を合わせる活動の設定

・視覚的な情報と併せて話す場面の設定

・友達の様子が見える配置の工夫

・「できた」が分かりやすい単純な活動の設定

・制作のゴールを分かりやすく提示

・児童同士の関わりをつなぐ工夫



つながりミーティングⅢ

事例対象の児童について、小中高のつながりの視点で生涯学習力について再確認・再検討。



エピソードの見取り（考察）から



次単元の授業づくりに向けて



情(試) ・経験していないことへの不安を安心感に変えていくために。

人(情) ・他者がやっていることから学ぶために、目で見て情報を集める工夫をする。



試 ・チャレンジするタイミングを自分でつかむための間を保障する。



おはなしふたば

～十二支のおはなし～



人(試)情 を膨らませる仕掛け

・児童同士が関わり合うための工夫

・主体的、意欲的に取り組むための、選択や決定する場面の設定

・自信や見通しをもって取り組むための、繰り返しの単元構成や学習過程の設定



つながりミーティングⅣ

年間の振り返りと児童の変容の分析。

次年度に向けた方向性の検討。



人 ・他者と関わることも大切だが、小学部段階では個でじっくりと活動を味わう時間も必要。一人でじっくり取り組む時間を保障しながら、スモールステップで他者との関わりを楽しめるようにしていく。

評価のツールとしてのエピソードシート

小学部 あおば学級 生活単元学習 「レッツゴーあおば～先生のおすすめスポットにでかけよう～」

エピソードシート①

(人) (情) (試) (自) (興) (好) (夢)

<子どもの現状と単元を通して育みたい姿>

<p><教育的ニーズ> 自分の考えや気持ちを、相手に伝えるような言葉や書字で伝える。</p> <p>人 自分の興味のある活動を通して友達や教師と関わろうとする。</p> <p>情 興味のあることについて、本で見たり、タブレット端末で調べたりする。</p> <p>試 何度も繰り返したことについて、自分から取り組もうとする。</p> <p>自 自分の好きなことが分かり、自分の言葉で教師や友達に伝えようとする。</p>	<p>→</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを通して様々な公共施設に興味をもち、友達と一緒に利用しようとしてみたり、利用を夢にしたりする。(人) (情) (試) ・友達が卒燈をあげたり、太鼓を叩いたりしている様子にも興味をもちながら制作に取り組んだ。 	<p><教育的ニーズ> 身の回りの人に、自分の要求や気持ちを簡単な言葉やしぐさで伝える。</p> <p>人 身近な友達や教師の行動を見てまねたり、一緒に活動しようとする。</p> <p>情 写真やイラストから情報を得て、名称を答えたり行動しようとする。</p> <p>試 教師や友達の行動を見てから、まねてやってみようとする。</p> <p>自 自分の好きなことを行動で示す。</p>	<p>→</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に体験したことの中から楽しかったことを、自分の言葉や写真の指差し等で表現する。 ・秋田犬や卒燈の写真を「これ」と指差しで制作した。「これは何」の問い掛けに、自分の言葉で答えようとした。
<p><教育的ニーズ> 自分の思いや考えを、教師や友達に簡単な言葉で伝える。</p> <p>人 友達や教師との関わりそのものを好み、自分から積極的に関わろうとする。</p> <p>情 教師の話に関心をもち、話を聞いて内容を大まかに理解できる。</p> <p>試 活動に対する見通しがもてると自分からやってみようとする。</p> <p>自 自分の好きなことが分かり、言葉で伝えながら友達や教師と一緒にやろうとする。</p>	<p>→</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問する内容を考えて自分の言葉でインタビューしたり、利用した公共施設の感想などを自分の言葉でまとめたりする。(人) (自) (興) ・自分の聞きたいことを即興で考えて質問した。自分の思いに気付き、自分の言葉で表した。 		

エピソードシート②

(人) (情) (試) (自) (興) (好)

<単元のエピソード> ※学びの軌跡をたどるように記述する

児童・生徒の姿・発言等	考 察 (人・モノ・コトとの関わり、わかほとモデルの視点)
<p>・ 散策中、学校周辺のお店や施設について聞かれると、名称を答える。「行ってみたい？」の問いには無言。</p> <p>・ ねぶり流し館についての問い掛けに、「反応よく答えたり、自分から手を挙げて発表したりする。 「太鼓の音がすごかった」「慎太郎先生（に教えたい）」「（選んだ写真が）お気に入りだから」</p> <p>・ 問い掛けに手を挙げたものの、答えられず、「ヒントほしい？」と言われると「うん」と頷く。</p> <p>・ 制作場面で、直志さんを見ていることが多い。自分から2個目に取り掛かる。</p> <p>・ 振り返りの作文で、テンプレートを「なくても大丈夫」と言い、「また行きたい」と記入。健太さんが書いたかどうかを気にする。</p> <p>・ PTAに向けの発表練習中「科学学習館について教えたい」とすぐに手を挙げる。「リンゴの香りがおいしそうだったから」と理由を話す。</p>	<p>・ 身近なお店や施設について知っており、見付けることはできるが、「行きたい」という思いが薄い。そこが何をやる場所なのか、何ができのかがよく分かっていないのではないかと。</p> <p>・ 教師による思考を促す発問。意図的な問い掛け。「この人に伝えたい」という思いを引き出している。(人)</p> <p>・ 教師や画像への注目。→情報を集める素地の育ち。自分のことを知るきっかけになっている。(情) (自)</p> <p>・ 実体験を基にしたことで気持ちが膨らみ、実感を伴った発言や目的意識につながった。(自)</p> <p>・ 学級集団への安心感→積極的な挙手</p> <p>・ 友達を意識できるような配置。活動によってはペア学習で関わりを深められそう</p> <p>・ 制作への集中、意欲。(興)</p> <p>・ 友達への意識。(人)</p> <p>・ 自分の言葉でまとめようとする。→教師との対話。→繰り返しの効果。経験を生かそうとしている姿。自分なりの挑戦の意思。(試)</p> <p>・ みんなで作り上げる意識。健太さんができたら完成と思っているのかも。(人)</p> <p>・ 大好きな卒燈のあるねぶり流し館ではなく、科学学習館を選んだ。 → (興)の広がり</p> <p>・ 心が動く体験だったのでは。(好)</p> <p>・ 理由の発言は毎日の日誌記入の積み重ねが効果的だった。文字での振り返りが言葉として思いに気付き、思いの整理につながった。(自)</p>

<単元に関連したエピソード>

学校生活	学校生活	家庭生活
<p>・ 校外学習後、他学級の教師に楽しかったことやおすすめポイント等を聞かれると、はっきりとした表情で「おすすめはあるよ」と答え、小走り駆けていった。その場所を教えてくださいと教師に駆け寄り、楽しかったこと、ソフトクリームがおいしかったことなどを自分から伝えていた。</p>	<p>・ 全校集会の頑張り発表で、「レッツゴーあおば」の〇×クイズと思い出の発表を行った。全校生徒の前に、ステージ上での発表にも臆することなく進行、発表した。発表の流れが分かり、教師に確認したり支援を求めたりすることなく、堂々行うことができた。</p>	<p>・ ねぶり流し館での校外学習後、家庭でトレットペーパーの芯で卒燈を作り、卒燈をあげる練習に取り組んだ。夏休み中に自分よりも小さな子どもが卒燈をあげる姿を見て、さらに卒燈をあげたい意欲が増し、やる気を出していた。</p>

中学部 授業づくりの実際

1 はじめに

昨年度は、「生涯学習力」を高めるための要素を精査して作成した「わかはとモデル」を授業づくりに活用し、他学部とのつながりや発達の過程において、中学部で育てたい力や目指す姿、求めるレベルを考慮しながら授業づくりに臨んだ。

その中で、本校の特長の一つである「私の応援計画」と「わかはとモデル」との関連がどうであるか確認の必要があるという課題が挙げられた。両者に整合性や一貫性が保たれることで、より生涯学習力を高めるためのツールとして授業づくりや生徒の評価に活用できるものとなると考えた。

そこで今年度は、「私の応援計画」が生徒の思いや願いを反映したものであるか、またそれらが各授業の指導計画や生徒の目標設定等へ取り入れられたものであるかを随時確認することに重点を置いた。その中で「わかはとモデル」の視点から、生徒の実態把握や授業でみられる姿、変容などの評価を行うサイクルを確立することで、教師が複数の目で生徒を見取り、生涯学習力を高める授業づくりを追求した。

また、授業づくりにおいて中学部の重点目標である「仲間とチャレンジ」の体現を目指した。「わかはとモデル」の視点の一つである【人と関わる】【試す】視点を重視した授業づくりを行うことで、他の視点【情報を集める】【自分を知る】にも効果的な影響をもたらすことが期待できると考えた（「4 授業の実際」で記述）。以上の実践により、全校研究主題にもある「豊かな学び」を生む「わかはとシステム」の構築を目指した。

2 「私の応援計画」の作成と授業への反映

(1) 「私の応援計画」の作成と分析

生徒の願いや思いは、中学部生徒版の「私の応援計画」にあたる「ゆめシート」(図1、秋田大学附属特別支援学校研究紀要.2018)にまとめられる。その作成及び評価や改訂にあたって、生徒との面談を年間3回行っている(4月、9月、2月)。また、同時期に保護者面談も実施している。ここで「わかはとモデル」の視点を面談の聞き取りや、本人、保護者から挙げられた思い、願いを分析・整理する際に活用し、「生涯学習力」の高まりを目指す「私の応援計画」となるように努めた(図2)。

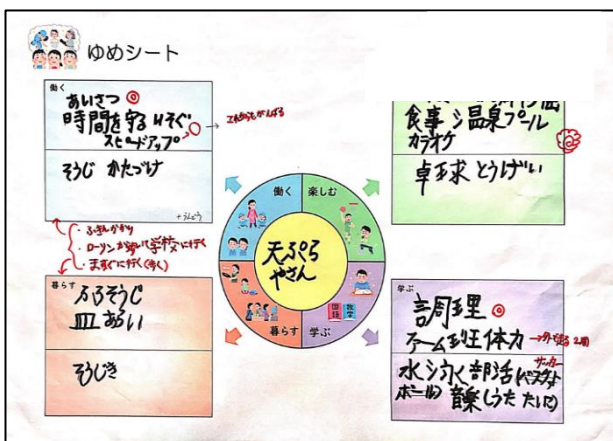


図1 「ゆめシート」

私 の 応 援 計 画	
氏名 (自署)	保護者名 (自署)
学部 学年	中学部3年 生年月日
将来の生活-現在の生活に関する願い 本人の願い 【学校】国語(書く、話す)、数学(時計、かけ算、割り算)、ピザ7の学習を頑張りたい。 【家庭】お風呂掃除、米とぎ、洗濯物を干しを頑張りたい。 【高等部】難しい学習にも挑戦したい。 【将来】お寿司屋さん。 保護者・家族の願い ・約束や時間を守って行動できるようになってほしい。 ・洗濯物や掃除を上手にできるようにしてほしい。 ・自分の考えや伝えたいことを相手に伝えるように話したり書いたりしてほしい。 ・困ったこと、分からないことを相手に話すことができるようになってほしい。 ・集中して作業学習や新しい学習に挑戦してほしい。 ・スポーツができる運動能力を身に付けてほしい。 ・確認しながら正確に作業できるようになってほしい。	
私の目標 【学校】国語の学習(書く、話す)や数学の学習(時計、かけ算、割り算)、ピザ7を頑張りたい。 【家庭】お風呂掃除、米とぎ、洗濯物干しなどのお手伝いを頑張りたい。	

図2 「私の応援計画」

「私の応援計画」「個別の指導計画」をはじめとした、本校で以前から運用されている教育資料に表される項目や記述すべき内容等について、改めて確認した上で、本人の願いや思いが各指導の形態における年間及び前後期目標に反映されているか、目標達成のために実施できることや有効と考えられることを、学部内で検討した(図3)。

本人の 思い	<学校>話すこと・書くこと、生単でピザの勉強を頑張りたい。 <家庭>風呂掃除や米とぎの手伝いを頑張る。<将来>寿司屋になりたい
必要な 支援	・身近な漢字や簡単な文章，日常生活に必要なお金の計算など，学習活動の支援 ・自分の考えや伝えたいことを相手に書いたり，話したりする支援 ・手伝いなどの家庭での役割に関わる支援
教育的 ニーズ	・日常生活に必要な漢字や文章の書き方，計算などの学習場面の設定 ・依頼や相談の仕方を経験または，練習する場面の設定 ・一日の感想を，自分の気持ちを含めて話したり，2～3語文で伝えたりする場面の設定



【年間目標（一部）】

日常生活の指導	生活単元学習	作業学習	国語・数学
・係活動に自分から取り組む	・理由を付けて自分の考えを友達に話したり，相手の考えを聞いて意見をまとめる。	・正しい道具の使い方や作業方法が分かり，最後まで集中して取り組む。 ・挨拶や報告をはっきり話す。	・助詞に気を付けながら文章を書いたり，話したりする。

図3 各教育資料の要点をまとめた資料（中学部3年 対象生徒 抜粋）

(2) 「私の応援計画」の授業への反映（つながりミーティングの活用）

つながりミーティングでは，年間の授業構想（4月），生徒の実態把握と有効な手立て（7月），実践による生徒の変容，経過の共有（10月），評価および成果の共有（1月）というように，毎回テーマを設定し，学部を越えた縦割りの職員グループを編成して意見交換を行った。

実際，「私の応援計画」に基づいて行った実践，生徒の実態や近況，エピソード等について担任の情報提供を受けて，他学部の職員から多くの質問や提案が挙げられた。生徒に関する考察の深まりや，指導の在り方に関わる新たな気付きが生まれる機会となった。つながりミーティングで得た内容を，授業づくりにつなげられるよう，学級担任や学部で共有を図った。その後，学部研究会では，各指導の形態でどのような内容が妥当かを，各担当者間で検討した（図4）。

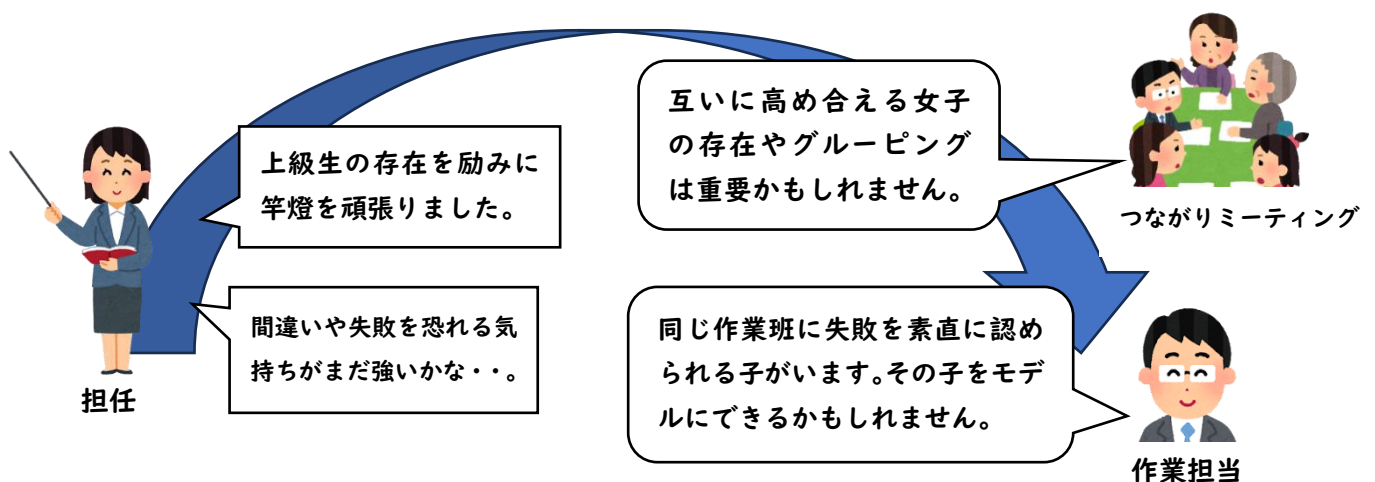


図4 つながりミーティングの実際

3 「わかはとモデル」による見取り

生徒の学習の様子を「わかはとモデル」の視点を通して見取り、授業づくりに生かした。「わかはとモデル」は、APDCAサイクルによる実践の中で、実態把握、授業における生徒の行動（言動）の分析、単元終了時の評価など、様々な場面で活用した。

授業研究会では、参観者が見た生徒の行動を、「わかはとモデル」の各視点ごとに分類・整理したり、その行動に至った要因など、生徒の内面に关わる解釈を述べ合ったりすることで、授業改善につなげることができた。

また、これら一連の生徒の変容や教師の見取りの記録を、エピソードシートにまとめ、単元を通した生涯学習力の高まりを評価するとともに、次単元の授業構想に反映させる有効な材料となった（資料2）。

4 授業の実際

中学部の合言葉「仲間とチャレンジ」の具現化を目指した授業づくりに取り組んだ。昨年度までの実践の成果から、友達と関わる中で課題解決する設定を重視し、授業づくりにおける基本的な共通実践事項として次の点を掲げた。

- ・「誰かのために」「誰かに喜んでもらう」ことをテーマとした目的の設定
- ・「繰り返し」や「試行錯誤」を大切に単元計画の立案、活動内容の設定
- ・生徒同士の関わりによって課題解決できるような活動及び状況の設定（話し合い活動、共同作業、グルーピングの工夫 他）
- ・振り返り活動の充実（写真や動画を活用した自己評価、友達同士がよい点を挙げたり、アドバイスしたりする場面の設定）

（1）中学部3年生「ピザ7 オープン！～中学部を招待～」

①授業の概要

中学部3年生は、1年生のときからピザを題材にした実践を継続している。コロナ禍による制限が緩和された今年度、ピザ屋を開店することを目指し、必要な物事を準備したり、接客練習に取り組んだりする活動に挑戦した。授業づくりにあたって、「わかはとモデル」と照らし合わせながら期待する生徒の変容をイメージし、単元計画におけるポイント（重点）を次のように示した。

- ・接客活動を中心に、初めて経験する活動については修学旅行や校外学習で見聞きしたことを基にしながら、随時教師の働き掛けを受けながら解決するという設定とする。
⇒（例）「先生の手本通りにやってみよう」「初めてだけど一度やってみよう」
⇒【人とつながる】【試す】視点の膨らみに期待
- ・経験を重ねる中で、自分たちが得た課題を生徒同士の話し合いやロールプレイ等によって解決する設定へと発展させる。また、練習の中で、お客役と店員役をどちらも経験し、互いに気付いたことを述べ合い、友達のアドバイスを受けてより良いお店を目指す展開を目指す。
⇒（例）「〇〇君のやり方をまねしてみよう」「△さんに聞いてみよう」
⇒【人とつながる】【試す】の膨らみが【情報を集める】にも作用するだろう
- ・毎時間または単元の節目ごとに、自分ができるようになったことや、どのように課題をクリアしたのかを実感できるような振り返り活動を大切にする。
⇒（例）「困ったとき、友達に聞いたら助けてくれた」「大きな声で接客したらほめられた」
⇒【自分を知る】=自己理解を促す場面
その中に【人とつながる】【試す】【情報を集める】視点の膨らみのフィードバック

②全校授業研究会より

全校授業研究会では、開店を控え「お客さんに喜んでもらうための接客とは？」と設定したためあての達成を目指し、話し合いやロールプレイ等によって解決策を明らかにする活動を提示した。協議では、「わかはとモデル」を活用して生徒の学びを見取り、効果的だった手立てや改善点について検討した。協議の概要を次の図5のようにまとめた。



よりよい接客について話し合う場面

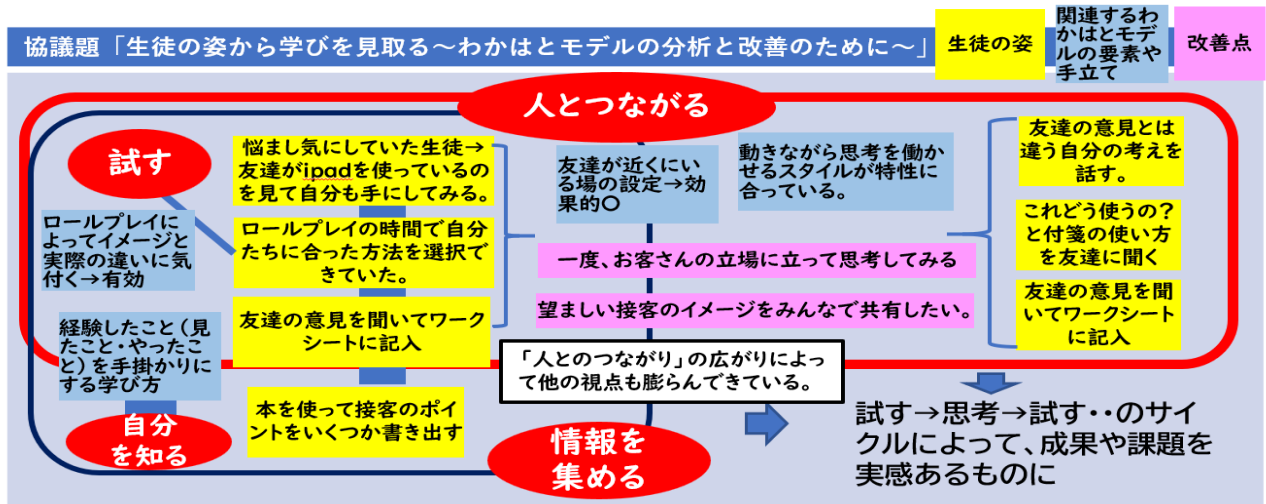


図5 「わかはとモデル」を活用した協議

【協議のまとめ】

- ・ペアや役割別のグルーピングによって、仲間と関わる状況に必然性があった。
- ・めあてを達成するために、考える（思考）⇒実際にやってみる（試行）という流れを生む状況設定が効果的だった。
- ・生徒の姿からは、仲間と共に課題解決する中で、友達と自分との考えの違いに気付くことや、実際に経験すること（ロールプレイ等）が解決のために有効であると気付くことなど「わかはとモデル」の各視点の高まりが見られる。

【わかはとモデル】による見取り

【人】【試】の膨らみにつながる授業。【情】にも作用している。振り返りの充実によって【自】の膨らみ（自己理解の促進）にも期待できる。

【講評より】

秋田大学 准教授 谷村 佳則先生	本時のめあて「お客さんに喜んでもらう接客とは？」よりは「お客さんに喜んでもらえるように接客の課題を解決しよう」の方が、その後の話し合いも促進されたのではないかと。わかはとモデルの視点を指導案の各項目にリンクさせて記載させてはどうか。指導計画の表【学習活動】【主なねらい】に合わせて【子どもを見取る視点】として示してはどうか。
県総合教育センター 指導主事 島津 憲司先生	わかはとモデルにもある視点「人とつながる」について～ 中学部段階になると地域とのつながりなども大切になる。関わる相手の広がりに合わせて「わかはとモデル」を見ていけると、単元や授業の大切なポイントを押さえられると感じた。

(2) 中学部2年生「中2ふしぎ発見!～in こども園～」(資料1)

①授業の概要

前期「みんなで調理をして食べたい」「フライドポテトがいい」という生徒の声を受けて、ジャガイモの栽培～調理に取り組んだ。その後「誰かに食べてほしい」「誰かを喜ばせたい」と変化した生徒の思いを踏まえ、例年行われている地域のこども園との交流会でポテトを振る舞うことに加え、園児に楽しんでもらえるような企画を自分たちで考えて実行する単元へと発展した。授業の発展の変遷や、重視した点については次のとおりである。

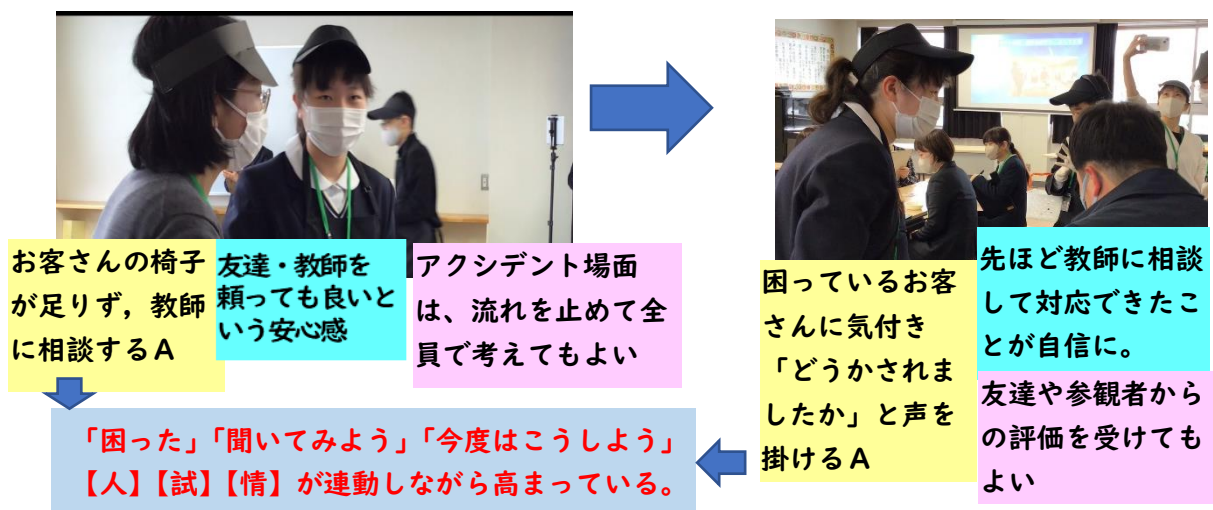


こども園との交流会の様子

- ・栽培～調理～会食を通して「自分たちの達成感、満足感」を十分に味わう（春～夏）
その後「誰かのために」という目的を設定、「おいしいね」「すごいね」など、自分たちの頑張りがすぐに評価として返ってくる状況をつくる。
⇒(例)「お客さん(〇〇先生)に食べてほしい」「おいしいって言ってくれるかな」
⇒目的の対象(お客さん:校内の先生)を思い、意識する【人とつながる】の膨らみに期待
喜んでほしい気持ちが「やってみよう」という【試す】の膨らみにつながるだろう。
- ・<企画⇒準備⇒開催>という流れを固定、繰り返すことで、経験を生かすことのできる単元構成とする。仲間と共に経験することで、話し合いや協力場面が成立する場面を増やす。
⇒(例)「交流会は私ひとりじゃ無理、友達と協力しなきゃ」「園児と話すとき、姿勢を低くしよう」
⇒目的の対象(園児)に喜んでもらうことを念頭にしつつ、目的の達成には仲間や教師の存在や協力が必要なことに気づく【人とつながる】【試す】の膨らみが十分期待できる。解決する過程の中で【情報を集める】も高まるだろう。

②公開研究協議会より

提示授業では翌週に控えた交流会のリハーサルと位置づけ、参観者に園児役を依頼、想定される様々な状況を作り、仲間同士の協力によって解決する場面へと導くことのできるような設定とした。協議では、授業で見られた生徒の姿から、効果的だった手立てと改善できる点を挙げながら、「わかはとモデル」から生涯学習力の高まりについて解釈を述べ合った(図6)。



※ 黄：生徒の姿 青：効果的だった手立て、要因 赤：改善点

図6 「わかはとモデル」を活用した見取りから生涯学習力の高まりを検証した一例

【協議のまとめ】

- ・次につながる評価の在り方について検討
～『交流会がスムーズに進行すること』や『盛り上がること』と、『自分たちが協力できたこと』『自分の役割を果たしたこと』は同じではない。何をどう評価するのかそのポイントを整理する必要がある。
- ・「何ができたか」「どのようにしたらできたか」という点を生徒自身で、または支援を受けながら振り返り、言語化させたい。(ICTの有効活用)
- ・実感のある振り返りとなるためには、めあて、活動内容、活動量の焦点化が必要。
- ・個々のレベルアップが交流会をより良くにつながるという捉え⇒「一人で」または大人なしでできる状況づくりを迫及する。

【わかはとモデル】による見取り

- ・目的を達成させるために、やるべきことに一生懸命向かおうとする姿(【試す】の膨らみ)
- ・全体、または自分の課題をクリアするための手段として、仲間と協力することが分かって取り組む姿(【人とつながる】【情報を集める】の膨らみ)が十分に見られたのではないかと)
- ・より実感のある振り返りや、一つのことをみんなで考え解決する場面設定によって自己評価の高まりにも期待できる。(【自分を知る】膨らみをさらに促すために)

【講評より】

秋田大学 名誉教授 武田 篤 先生	先生たちが「生涯学習力」を障害のある子たちも同じであると捉えることが大切。「わかはとモデル」の基盤にある「好奇心」「興味関心」というところに大切なものが隠れている。やってみたい、挑戦したい気持ちを育て、後押しすることが教師のもっとも重要な役割。今日の授業の「人の役に立ちたい」という子どもたちの気持ちはそこに通ずる。
県総合教育センター 指導主事 島津 憲司 先生	単元の最後に「振り返り」の活動が設定されている。単元を通しての学びを振り返る、押さえる内容であってほしい。またそれは、教室に掲示されたゆめシートと関連付けることもできる。こうした取組を積み重ねることで、研究主題とリンクした実践となると感じた。

4 まとめ

(1) 研究の成果

①生徒の変容から

- ・「お店」や「交流会」など、実際場面を経験することで、目的意識や相手意識の高まりがみられた。「喜んでほしい、成功したい」思いが、経験を生かして思考したり、自分の力や仲間の協力によって解決しようとしたりする姿へとつながった。
- ・目的を果たし、達成感を味わい評価される経験をすることによって、自分たちの頑張りが「誰かに届く」「影響する」という実感につながった。これらの成功経験を、次の単元や他の授業で生かそうとする場面が見られるようになった。
- ・生活単元学習の授業そのものが、生徒にとっての生活意欲となり、個々の成長を促進した。休み時間に題材の話題(ピザ、こども園、クレープなど)を話したり、自分から交流会の演目の練習に取り組んだりする生徒の姿がその象徴的なエピソードとして挙げられる。

②生徒の「夢」や「願い」を基点とした実践

- ・【生徒の夢、願い】～【私の応援計画】～【授業づくり】～【評価】というサイクルを実行した。これらが整合性や一貫性があるものとなるように、学部内の共有を図ったことで、生徒に関わる全ての教師の生徒理解が深まり、指導に生かされた。
- ・中学部の合言葉である「仲間とチャレンジ」を具現化を目指した授業実践（授業づくり、授業研究会）により、「わかはとモデル」の【人とつながる】【試す】の膨らみを中心に、生涯学習力の高まりと評価できる生徒の変容が大いに見られた。

③教師による見取り

- ・実態把握，つながりミーティング，授業研究会の場で行った「わかはとモデル」を活用した生徒の見取りによって，生徒の内面について考察し，理解を深めようとする意識とともに，生徒の生涯学習力の高まりを実感する職員が増えた。（全体アンケートより）
- ・「わかはとモデル」が生徒を見取り，生徒の今と将来（夢）をつなぐツールであるという認識を共有し，授業者が活用できるものとなってきた。

（２）次年度へ向けて

- ・「わかはとモデル」はあくまでも，生涯学習力という観点から子どもを見取る視点である。授業において目標とする「育てたい資質・能力」との関連を整理する必要がある。
- ・「わかはとモデル」を活用した生徒の見取りに一定の成果があった。一方で，各視点への分類作業にエネルギーを要した印象が残る。
- ・各授業研究会からも，めあての設定と評価の在り方には，検討・改善の余地が残っている。目的やめあてを自分事として捉えること，自分のしたことに手応えを感じられること，そのために教師が意味付けや価値付けをすること，など実感のある学びとなるような手立てを授業に反映させたい。
- ・生涯学習の観点から，地域展開の在り方について，本校でも更に検討したい。「学校での学びを生かす場として」「新たな学びを得る機会として」地域で学ぶ意義を明らかにし，豊かな学びの実現を目指したい。

中学部 2年

「わかはとシステム」による授業づくり



Assessment

フライドポテトを作って食べたい。

誰かに食べてもらいたい。

みんなで一緒に頑張りたい。

子どもの夢・願い (私の応援計画)

教師が子どもに願う姿

- ・ (自分なりの方法で) 思いや考えを相手に伝える姿
- ・ 目的に向かって、自分から取り組み、やり遂げる姿

コミュニケーション能力を向上させたい

自分の役割にしっかり取り組んでほしい。

保護者の思い

わかはとモデルの視点 好 フライドポテトを作って食べたい !!

- (人) 自分の考えを伝える。相手の意図や感情を理解しようとする。
- (情) 経験したことを基にして考えたり、自分なりの方法を選択して調べたりする。
- (試) 考えたり話し合ったりして決めたことや、調べて分かったことを実行する。



中2 ふしぎ発見

生徒たちの「食べたい」意欲を基に、作物(ジャガイモ)の栽培や収穫、調理などの活動を取り入れる。経験を重ねる中で「食べたい」から「作りたい」「誰かに食べてほしい」というように、生徒の思いや願いが変化していくことが期待される。そこを複数の目で見取り、授業のねらいや活動内容を発展させていきたい。

【知・技】 目的(会食、お店の開店、○○との交流等)やテーマに沿って調べたり、考えたりする。

【思・表・判】 自分の意見や意思を伝える。相手(お客さん、交流相手等)のことを考えて、話し合う。

【学・人】 目的の達成に向けて、自分の役割を果たしたり、協力して成し遂げたりする。

関連する主な教科等: 国語科(聞くこと・話すこと) 数学科(数と計算) 美術科(表現) 家庭科(調理の基礎) 他



つながりミーティング I 「わかはとモデル」を用いて、単元の内容や年間の構想について、小中高縦割りの視点で確認・検討。



○ 「フライドポテトを作って食べたい」という生徒の声を受け、ジャガイモを栽培する。そこからの発展として考えられる展開を出し合った。

人とつながる	試す	情報を集める	自分を知る
<ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい「関わり方」のモデルが必要。 ・ 3年生のピザ屋と2年生のポテトをうまく融合してはどうか。 ・ 依頼、注文を受けて応えるお店はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標個数を決めて、ポテトチップスを販売。 ・ 学校内の誰かのために宅配(デリバリー)のような形で活動を発展させられそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取材も兼ねて食べることを目的とした校外学習の計画。 ・ 中3から色々学ぶことができそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かに評価してもらいそれがポイント(点数)で示されたりすれば意欲につながる生徒が多いかもしれない。 ・ 中3の活動から見聞きして学び、自分たちと比較することで、今の力を知る機会にできる。



【春～夏】 ・ジャガイモの栽培(観察記録)
 ・簡単なレシピ考案 ～調理及び試食

【秋～冬】 ・例年中学部で行う「こども園との交流会」にこの単元を関連させる。

➡➡➡ (人) (試) (情)



つながりミーティングⅡ

事例対象の生徒を設定し、小中高のつながりの視点で生涯学習力について確認・検討。



エピソードの見取り（考察）から



次単元の授業づくりに向けて



人(試) ・ 友達の頑張りを自分に反映させる場面設定が有効（成功も失敗も友達と共有）



・ 一緒に高め合える女子の存在、グルーピングの工夫



試(自) ・ 頑張りや成果の見える化（分かりやすい目標、成果の実感を）



中2 ふしぎ発見 ～商品開発編～



人(試) を膨らませる仕掛け

- ・ 作ったものを提供する目的の設定（身近な人～小学部、先生方 他）
⇒ 「おいしいね」「すごいね」など、自分たちの頑張りがすぐに評価として返ってくる
- ・ 得意なことを生かした役割分担



つながりミーティングⅢ

事例対象の生徒について、小中高のつながりの視点で生涯学習力について再確認・再検討。



エピソードの見取り（考察）から



次単元の授業づくりに向けて



人(情) ・ グループやペアで課題解決していく状況の設定



・ （こうありたい）イメージの見える化、ゴールと選択肢の提示



・ できていること、乗り越えたことの押さえ、フィードバック



中2 ふしぎ発見！ ～inこども園～



人(試)(情) を膨らませる仕掛け

- ・ 実際場面を想定したロールプレイ、小学部などの協力を得て経験を積む
- ・ 交流相手（園児）に喜んでもらうために、自分たちで協力する必要がある設定に



つながりミーティングⅣ

年間の振り返りと生徒の変容の分析。次年度に向けた方向性の検討。



試(人) 目的や個々の役割が明確であること、友達と一緒に課題解決する設定等が作用し、人と関わりながら取り組もうとする姿が育ってきている。次年度、活動の場を発展させていく（地域を意識）

評価のツールとしてのエピソードシート

中学部2年 生活単元学習 中2ふしぎ発見！ ～商品開発編～		エピソードシート①	
＜子どもの現状と単元を通して育みたい姿＞		(人) (情) (試) (自) (興) (好) (夢)	
<p>＜教育的ニーズ＞自分の思いを相手に正しく伝える。役割を意識し、積極的に活動する。</p> <p>人 友達や関わりが多い教師との会話を楽しく。集団行動の苦手な友達に声を掛けて手助けできる。</p> <p>情 YouTubeでディズニーなど、自分の好きなキャラクターの動画を見ることを好む。</p> <p>試 家庭では母と調理したり、一人で賣い物に挑戦しようとしていたりするようになった。</p> <p>自 「中学生らしさ」「女子らしさ」にあこがれを抱いている。</p>	<p>思いや考えを自分から教師や友達に伝える。学級全体を見渡し、友達に声を掛けたり手伝ったりする。</p> <p>評価 調理では、自分のやり方や考えをペアの友達に伝えながら調理を進めた。ペアで話し合っって役割分担をしたり、活動に誘い掛けたりした。</p>	<p>＜教育的ニーズ＞気持ちや考えをわかりやすく伝える。目標をもってやるべきことに取り組む。</p> <p>人 自分から友達と関わろうとすることは少ないが、みんなの前で発表することは好きである。</p> <p>情 タブレット端末の操作に慣れ、活動の感想の入力がスムーズになった。</p> <p>試 漢字の読み書きが得意である。漢検への挑戦を続けている。</p> <p>自</p>	<p>自分の気持ちを行動に移す前に言葉にして相手に伝える。活動の目標やめあてが分かり、自分の役割を果たす。</p> <p>評価 調理では、ペアの友達に担当したい役割を伝え、交代しながら調理を進めた。教師と一緒にペアへの声の掛け方を考えてから伝えた。</p>
<p>＜教育的ニーズ＞好きなこと、できることに長い時間取り組む。サインや発声で自分の気持ちや意思を伝える。</p> <p>人 身近な教師や友達に発声で応えたり、体を近づけて関わろうとしたりする。</p> <p>情 朝の会や授業の始まるの場面では周囲の動きを見て起立や着席をする。</p> <p>試 担任以外の教師や他学年の生徒の声に反応する場面が増えてきている。</p> <p>自 カラフルな色合いの文具や学習用具を好み、手に持って音や触感を味わうことが多い。</p>	<p>好きな活動に自分から向かう。教師や友達からの言葉掛けに声を出して答えたり、誘いを受け入れて一緒に活動したりする。</p> <p>評価 畑の活動を好み、自分から除草や手掘りをした。調理ではペアの友達の誘いを受けて一緒に生地を混ぜたり、型抜きをした。</p>	<p>＜教育的ニーズ＞目標に向かって最後まで取り組む。状況に合った挨拶や話し方を見て会話に生かす。</p> <p>人 自分の考えや気持ちを単語や短い言葉で話すことが多い。親しい相手には流暢さが増す。</p> <p>情 タブレット端末の操作に慣れてきている。活動の感想を短文で入力した。</p> <p>試 お金と漢字の学習を頑張りたいと話している。</p> <p>自</p>	<p>目標やめあてが分かり、自分の役割を果たす。自分の考えの伝え方や相手への聞き方の種類を増やす。</p> <p>評価 調理では本時の目標やねらいを繰り返し確認しながら活動した。伝え方を教師と確認し、丁寧な言葉や口調で伝えた。</p>
<p>＜教育的ニーズ＞集団のルールを身につける。自分の気持ちを正しく伝える。落ち着いた気持ちで最後まで取り組む。</p> <p>人 教師や友達との関わりを楽しむ。関わりたい気持ちが不適切な行動に表れることもある。</p> <p>情 平仮名や片仮名、使用頻度の高い漢字の読み書きができる。</p> <p>試 係などの繰り返しの活動に自分から取り組み、見本を手掛かりにハサミやのりを使って制作に取り組む。</p> <p>自 活動から離れてしまうことがあるが、教師の働きかけを受け入れてみんなと一緒に活動に戻れるようになって</p>	<p>自分のやることや役割が分かり、安心できる教師や友達と一緒に一定時間活動に向かう。</p> <p>評価 調理の活動を好み、自分から活動に向かった。ペアの友達にやりたい役割を伝え、教師と一緒に役割を果たした。</p>	<p>＜教育的ニーズ＞話を聞いて活動内容を理解し、自分から取り組む。</p> <p>人 人と関わることを好み、会話を楽しむ。また、集団での学習で積極的に発言しようとする。</p> <p>情 読み書きに苦手意識や困難さがあるが、聞くことで大体の内容を把握する。</p> <p>試 計算機を活用して簡単な買い物に挑戦している。</p> <p>自 サッカー部に所属しており、家庭生でも用具を購入したり、プロチームの応援に出掛けたりしている。</p>	<p>活動内容や自分の役割が分かり、最後まで取り組む。分からないときに教師や友達に聞く。</p> <p>評価 調理では役割を固定し、繰り返しの活動の中で見直しをもっと取り組んだ。分からないときに教師に確認してから行った。</p>

単元のエピソード ※学びの軌跡をたどるように記述する		エピソードシート②	
(人) (情) (試) (自) (興) (好)			
<p>児童・生徒の姿・発言等</p> <p>面談で「植物を育てること、料理が好き」と発言 「フライドポテトをみんなで楽しく作りたい」「中2バージョンにアレンジしたい」と発言</p> <p>ポテトを揚げる油の温度が分からず迷う →ペアの生徒が「泡がぶつぶつしてきたら、(ポテトの)かけらを入れてみたらいい」とアドバイスをする。一旦考えたが、アドバイスを取り入れずに冷たい油で揚げてしまい失敗する</p> <p>次の調理の場面で、友達からのアドバイスを正確に覚えていて、油が温まってから揚げた</p> <p>「おしゃれなお店にしたい」と発言「リーダー」の役割を引き受け困っている友達を助けたり次の行動を伝えたりする姿が見られた。</p>	<p>考察 (人・モノ・コトとの関わり、わかとはモデルの視点)</p> <p>安心できる教師に対して本音をつぶやいたり、思いを言葉にできるようになったりしていると感じられる。</p> <p>「料理が得意」「ペアの友達より自分の方ができる」というプライドがあり、素直にアドバイスを受け入れられなかったのではないかと。</p> <p>好きなことである「料理」については、他の活動よりも前向きな気持ちをもつことができ、全体の場で気持ちを伝えることができたのではないかと。</p> <p>自分の方が料理スキルがあると考え、友達の意見を信用することが難しくなかったのではないかと。</p> <p>すぐに自分の間違いを受け入れることは難しいが、時間を置いて自分の中で振り返り、他の考えを受け入れたり、行動を改めたりすることができるのではないかと。</p> <p>憧れとしていた高等部の「はとカフェ」や中3の「ピザ7」のような活動を自分たちもできることに期待感を感じ、責任のある役割を引き受けることができたのではないかと。</p>	<p>(人) (自) (好) (興)</p> <p>(人) (自)</p> <p>(試) (情) (自)</p> <p>(人) (興) (人)</p>	
<p>＜単元に関連したエピソード＞</p>			
<p>学校生活</p> <p>竿燈の太鼓のリズムが曖昧で担当の教員から練習するように伝えられ、直後に泣いて黙り込む →その後、自主的に苦手なところを繰り返し練習し、本番までにリズムを覚えた</p>	<p>家庭生活</p> <p>季節ごとに植物を育てている 母と一緒に料理をすることが多い 母との面談より「放課後の時間の使い方を考えたい」(現在は祖母母宅に帰宅)</p>	<p>地域生活</p> <p>「休みの日も学校みたいに楽しいことがしたい」と発言 「高等部になったら休みの日に友達同士で遊びに行きたい」と発言</p>	

高等部 授業づくりの実際

1 はじめに

(1) 「Dスタディ」における取組

高等部では、令和元年度から本校で取り組んできている「生涯学習力」をテーマとした研究を通して令和2年度に設定された授業である生活単元学習「Dスタディ」を研究対象として授業実践を重ねてきた。「Dスタディ」は、Discover（発見）とDo（やってみる）の頭文字「D」から命名されており、生徒の実態や教育的ニーズを基に知的好奇心を喚起しながら、問題発見・問題解決型の授業を展開することで、生徒の「生涯学習力」を高めることを目的としている。

令和4年度の研究で「Dスタディ」は、「生涯学習力」を高めるための探究型の学習プロセスを導入した生活単元学習として提案された（図1）。

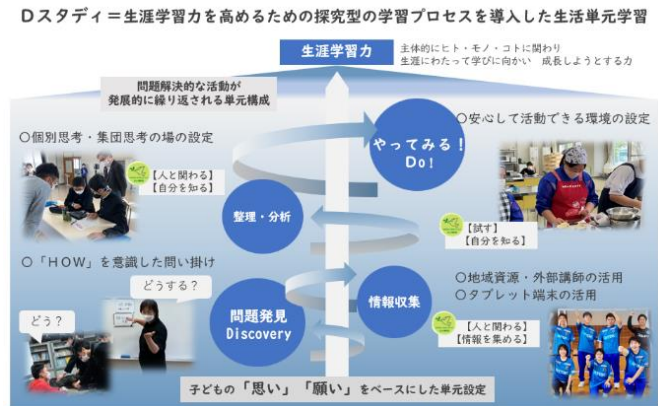


図1 Dスタディに関する説明資料

(2) 昨年度の研究から

昨年度の研究では、学部研究会における話し合いから、「わかはとモデル」の4つの要素を導き出し、その4つの要素に沿って「生涯学習力」を高めるための具体的な生徒の姿を意識した授業実践に取り組んだ。高等部の実践では、「生涯学習力」を高める授業づくりを通して、生徒が自ら発信していく力や問題解決を図る力が身に付いてきたことが確認できた。教師側の変容として、卒業後、生徒が豊かに生活するために必要な力について検討し、その要素を取り入れた授業を考えた。また、「生徒が失敗しないように」から「生徒が失敗も含めて、そこから何を学ぶか、どのように生かすか」と考えるようになった。

(3) 本年度の研究

昨年度の研究で挙げられた課題から、今後に向けて、高等部を卒業した生徒の姿から、「生涯学習力」を高める授業づくりを通して育まれた力が、社会の中でどのような形で発揮されているのかを見取れるよう、生徒の学び続ける姿を追っていくことが必要だと考えられた。

また、「私の応援計画」作成や単元計画、授業評価など様々な場面において、「わかはとモデル」を活用して生徒の姿を見取ることによって、「わかはとモデル」が授業づくりの視点ではなく、生徒を見取る視点として機能することを目指した。

2 生徒の思い、願いを反映した「私の応援計画」の作成と活用

(1) 作成

今年度は、「生涯学習力」を高めるため、「私の応援計画」、「つながりミーティング」、「面談」、「授業づくり」のそれぞれを関連させるためのシステム作りを行った。「私の応援計画」（図2）（図3）は、生徒の思い、願いを基点にしている、本人主体の個別の教育支援計画である。「私の応援計画」作成のために、教師は対話を重視して生徒の思い、願いの聞き取りをしている。その際に生徒がより具体的に自身の思い、願いを言葉にできるように、教師は生徒が自分で考え、考えを深められるような問いかけ（目

標の意味や意義についての問い返し等)を繰り返して、生徒の気持ちを引き出すよう努めている。完成した「私の応援計画」は、いつでも生徒や友達、教師が見ることができるように、教室に掲示している。

(2) 活用

作成した「私の応援計画」から生徒の教育的ニーズを把握し、指導目標・指導内容を決定・見直しを行う。今年度は「私の応援計画」作成から、指導目標等の設定までの間に、「わかはとモデル」の視点による生徒の見取りの過程も含めた。その後、授業を構想し、授業実践を重ねた。

「私の応援計画」を基に計画した授業の実践、検討を繰り返す中で、「つながりミーティング」(図4)による単元計画の見直しや評価、生徒の変容を他学部の職員と話し合った。生徒の変容に効果的だった手立てや授業の仕掛けを再確認する機会になった。加えて、目指す姿になるために、小学部段階でどのような指導が必要か等、現在の指導を考える機会にもなった。

(3) エピソードシートの作成

実施した単元の前後で生徒にどのような変容があったかを見取り、記録するためのツールとして、エピソードシートを作成した。授業中の様子や学級での会話などから、変容が見られた内容について記録し、授業の反省や次回以降の授業構成の参考にした(資料2)。

3 授業の実践

(1) 雪グループ「楽しむぞ! 挑戦するぞ! ~調理をしよう~」(全校授業研究会: 7月)

全校授業研究会では、雪グループの「楽しむぞ! 挑戦するぞ! ~調理をしよう~」の授業を提示した。雪グループでは、4月に雪グループの友達と意見を出し合い、一緒に学びたいことの「ウィッシュリスト」を作った。提示した授業は、「調理がしたい」「いろいろな料理を作れるようになりたい」という生徒の思い、願いを基に、調理を活動の中心に設定した。雪グループでは、小単元の構成を「情報収集(計画)→実行①→課題発見

私の応援計画

氏名 (自署)		保護者名 (自署)	
学部 学年	生年月日		
将来の生活・現在の生活に関する願い 本人の願い 【学校】 作業学習の清冊検定1級に合格したい。 1人暮らしに掛かる費用を知りたい。 【家庭】 映画を見に行きたい。 料理ができるようになりたい。 【高等部】 現場実習で清掃の仕事をしてみたい。 【将来】 サッカー強化ゲームで試合に出たい。 自動車免許を取りたい。 清掃業に携わりたい。			
保護者・家族の願い ・サッカーを通じて、目標に向かって努力する姿を学ばせたい。 ・生活するために必要最低限のことができるようになるほしい。 ・自分の意思を強くしてほしい。 ・勝れる人になってほしい。 ・自分の意見をしっかりと伝えてほしい。 ・路線バスの乗り方を覚えてほしい。			
私の目標 【学校】 自分の考えをはっきり伝えたり、困ったときは相談したりできるようにする。 【家庭】 家事のできることを増やして、家族の一員としての役割を果たす。 バスに乗って、友達と出掛けることができる。			

図2 「私の応援計画」(個別的教育支援計画)

私の応援計画 (高等部生徒用)		名前 久米 真暉
目指す姿	・自分の調理スキルを高めたい。(テロメック) ・道明精神、練習を教える。 ・シュート、ドリブル、練習を頑張る。 ・競技チームの練習	【前期評価】 【後期評価】
＜振り返り＞	・空想をよく作業する。 ・職人場へいって、身体も覚悟するようになろう。	【前期評価】 【後期評価】
＜進捗＞	・家のよりの調理スキルを伸ばす。 ・料理、1人暮らし。 ・家族(妻・子)	【前期評価】 【後期評価】
＜進捗＞	・料理のスキルを伸ばす。 ・料理も作れるようになる。 (料理のスキルを伸ばす)	【前期評価】 【後期評価】

図3 生徒用「私の応援計画」

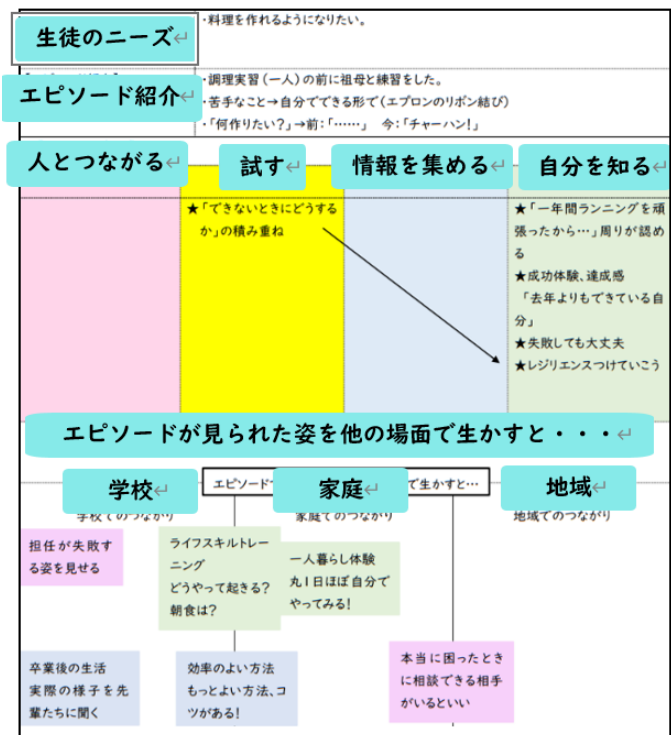


図4 つながりミーティングの資料

→情報収集(改善)→実行②→まとめ」という流れで統一し、学習に見通しをもって主体的に取り組んだり、自分の思いが実現する過程を整理したりすることができるようにした。

授業を進めるにあたり、家庭科を専門とする秋田大学の堀江さおり准教授から単元構成や調理に関する助言をいただいた。また、実際に授業の様子を参観していただいたり、調理の手本を見せてもらったりした。

授業では、夏休み中に家庭で調理に取り組み、家族に「おいしい」と言ってもらえるように、自身のレシピを見直した。見直す視点として、専門家からのアドバイスを振り返り、自分は特にどのようなことに気を付けるべきか考えた。二つのグループに分かれてレシピの見直しを行っており、作るメニューによって取り入れるアドバイスが異なったり同じだったりした。



レシピを相談する様子



調理を教えてもらう様子

【講評より】

<p>秋田大学大学院教授 藤井 慶博 先生</p>	<p>指導案の内容が生徒の得意なことからスタートしていると感じた。課題と聞くとマイナスなイメージをもったり高い目標を設定したりということがある。今ある力、今もつものを生かすという考え方が良いと思う。</p> <p>本時はグループごとに話す座席配置だったが、人とつながる機会は少なかった。必ずしも、どの授業でも人と関わる機会を設定しなくてもいい。どこの単元で、人とつながる活動を多くするか、意図的に設定していければよい。</p>
<p>秋田県教育庁 中央教育事務所 指導主事 高橋 基裕 先生</p>	<p>個人思考からペア思考、集団思考へと展開されていく秋田型の授業と異なり、全体で学んだ後に少人数で繰り返し、個人の取組へと展開していく本時の流れが、生涯学習力の育成につながると感じた。</p> <p>「私の応援計画」作成や面談を通して、生徒がなりたい自分になるために何を頑張ればいいのかを考えられるとよい。</p>

（2）月グループ「Dスタチャレンジャーズ～ファッションを楽しもう『わかはとチャレンジャーズコレクション』開催～」（公開研事前～公開研）（資料1）

公開授業研究会では、月グループの「Dスタチャレンジャーズ～ファッションを楽しもう『わかはとチャレンジャーズコレクション』開催～」の授業を提示した。月グループでは、4月にグループの友達と一緒に学びたいことについてイメージマップを使って自分の考えを整理し、意見を出し合った。提示した授業は、「流行を知りたい」「自分に似合う服を知りたい」という生徒の思い、願いを基に計画された。また、単元の始めにもイメージマップ作成の時間を設けて、テーマの言葉について知っていることや、その言葉から連想すること等を視覚的にまとめ、生徒たちの言葉から単元計画を組み立てた。



コーディネートを考える様子

衣服には身の安全を守る機能、自分の個性を示すための役割等があることを学んだあと、通勤着について考える小単元、友達と遊びに行く時の服装について考える小単元の流れで学習を進めた。場に応じ

た服装について調べたり実際に着たりして、考えを深めた。

家庭科の専門家である秋田大学の堀江さおり准教授やユニクロ茨島店の店長にも御協力いただき、コーディネートを考える際のポイントや流行等について教えていただいた。教えてもらったことを表にして張り出し、授業中にいつでも確認できるようにした。

授業では、二つのグループに分かれ、対象生徒のコーディネートを考える活動を行った。通勤服について考える活動を行った後、テーマを「友達と駅前で遊ぶ」に変え、同じ流れで考えたり意見を伝え合ったりする活動を設定した。あらかじめ考えていた二つのコーディネートを比較し、どちらがより対象生徒に似合っているか、それはどのポイントが理由になるか、などを考え、意見を伝え合った。グループの意見が一方のコーディネートに決まった後は、教室後方に準備された衣服を手に取り、鏡の前で合わせたり試着したりした。



服を選ぶ様子

授業後の研究会では、「価値観の形成」という話題が出た。衣服は個人の好きなもの、感覚によるところが大きく、明確な正解があるわけではない。その際に、自分の好きな気持ちを大切にしつつ、周囲の人から見て違和感のない服装選びができる力が求められるという意見が出た。

今後の授業の展開として、自分の給料で衣類を購入するならどのお店なら無理なく購入できるか、セール時期など、より生活に即した知識を扱ってみてはどうかという提案があった。また、インターネットで簡単に洋服を購入できるようになっているため、ネット購入の際のメリット、デメリットなどを取り上げてみてはどうか、という意見もあった。

【講評から】

秋田大学大学院教授 藤井 慶博 先生	本単元は、ファッションという正解のない話題。「〇〇だから～です」と自分の考えを伝える姿が見られてよかった。「これいいな」「ちょっとな」という何となくの思いを本人たちなりの言葉で言語化できていた。 教師のツールである「わかはとモデル」と当事者のツールである「私の応援計画」を効果的につなぐことが望まれる。
秋田県教育庁 中央教育事務所 指導主事 高橋 基裕先生	生徒たちの姿が生き生きしており、認め合う集団づくりができていた。本時の授業は、生徒と教師が対話を通して作り上げていく授業だった。教師が適度な距離感で関わることで、生徒の発言や行動を補い、生徒が安心感もちながら授業に臨むことができていた。授業の内容によっては教師が見守り、生徒たちだけで進める授業を展開してみてもどうか。 生涯学び続けるために、同じ考えや違う考え、自分に合うもの等を考えたり見付けたりしていくことが大切である。

(3) 秋田大学キャンパスツアー

今年度新たな取組として、秋田大学の授業や施設を見学するキャンパスツアーに参加した。秋田大学では以前から生涯学習講座が年数回実施されており、本校の卒業生も参加している。在学中から大学を訪問し、施設や雰囲気を知っておくことで、卒業後の学びの場として活用できるのではないかと考え、企画された。企画は大学生と協同で計画し、本校生徒はDスタディの一環として参加した。

キャンパスツアーでは、秋田大学構内で行われている二つの授業を見学した。少人数で行われている授業や講堂で行われている大人数の授業を見学し、大学生の美術作品を鑑賞したりホールの椅子に座らせてもらったりした。見学後は、特別支援教育コースの学生自習室を訪問して、大学生がどのような時間割で過ごしているかなどのお話を聞いた。食堂や売店も利用するなど、幅広く構内を見学、利用した。



講義の様子を見学する様子



食堂を利用する様子

活動後のアンケートでは、大学生が学ぶ内容に興味をもったり、高等部卒業後に大学で学んでみたいと答えたりする生徒がいた。

職員や企画した大学生との話から、今後は活動に参加する対象を小学部や中学部も含めたり、サークル活動の見学など幅広い内容に広げていったりする展望が話題になった。

4 まとめ

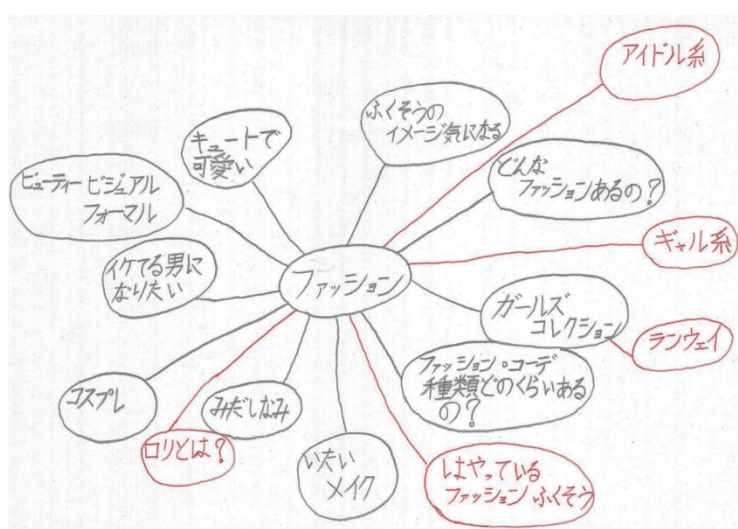
(1) 成果

高等部の実践の成果として、以下の二点が挙げられた。

- ①「私の応援計画」を大切にしたい授業づくりができたことである。生徒の思い、願いを聞き取り、授業づくりへと反映させてきた。具体的に生徒の思い、願いを聞き取る手段として、雪グループではウィッシュリスト作り、月グループではイメージマップ作りをした。これらの活動は生徒の思いを教師が具体的に把握するだけでなく、生徒が自身の思考を視覚的に理解しやすくする効果があった。各単元のはじめにリストやマップ作りを行うことで、学習内容の見通しをもちやすくなり、安心感をもちながら学習に臨むことができるようになった。



ウィッシュリスト



イメージマップ

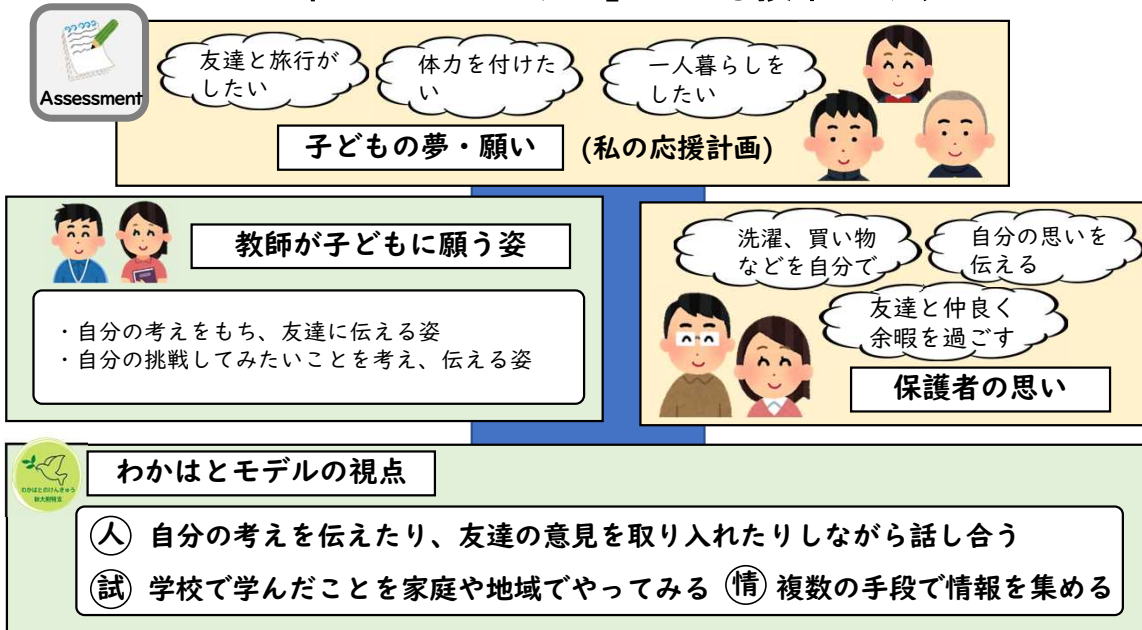
- ②「わかはとモデル」の視点による生徒の見取り方が職員に定着しつつあることである。授業づくりでは、生徒の思い、願いと保護者の思い、願い、教師の思い、願いのそれぞれを踏まえて単元計画を作成した。その際に、生徒の実態を「わかはとモデル」の視点で見取った他、授業後の検討会や「私の応援計画」作成等の機会に「わかはとモデル」の視点を活用した。

(2) 課題

高等部の実践の課題として、以下の二点が挙げられた。

- ①「私の応援計画」と「わかはとモデル」の結びつけ方についてである。全校授業研究会の分科会でも指摘されたように、指導者のツールである「わかはとモデル」と当事者のツールである「私の応援計画」はこれまで独立したものだだった。それらに関連させ、相互に効果をもたらすために、より効果的な結びつけ方の方策について考えてきたい。
- ②卒業生へのアンケート結果を分析、検証する必要があると考える。今年度、卒業生に卒業後の生活に関するアンケート調査を行った。卒業後の学びの場や余暇活動、在学中学んで役立ったことなどを聞いた。今後は集計した回答を更に分析し、今後の指導に生かすための方策を検討したい。

「わかはとシステム」による授業づくり



Plan Dスタディ月グループ

年度当初や単元の始めにイメージマップを作成し、生徒の興味・関心に基づいた授業内容を設定する。生徒が個人やグループで考える機会を設け、思いを伝え合う経験を重ねる。

【知・技】様々な方法で情報を集め、経験を生かしながら活動に取り組む。

【思・表・判】相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりしながらよりよい方法を考え実行する。

【学・人】主体的にやってみようという気持ちで取り組んだり、情報を集めようとする。

主な教科等：国語、数学、社会、職業、家庭、情報、自立活動など

Assessment **つながりミーティング I** 「わかはとモデル」を用いて、単元の内容や年間の構想について、小中高縦割りの視点で確認・検討。

Check 人とつながる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家に聞く（複数） ・ 他グループとの情報共有 ・ 日帰り旅行を計画。計画→実行で繰り返す中で深める学び ・ 外部とのつながりが他のグループへ波及、好影響となれば良い
Check 情報を集める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に出て行く ・ 伝える→引き出す力 ・ 集めた情報を誰に伝えるのかという視点
Plan 自分を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に合った学び方を知る ・ 思考のプロセスを可視化 ・ キーワードからイメージマップを広げて可視化 ・ カテゴリーを組み合わせる

卒業後の生活が近付いてきた。友達と協力して考え、最適な方法や自分に合う方法を選んで実行する力を付ける。▶▶▶ ① ② ③

Do Dスタディ月グループ ～オリエンテーション～
～料理を楽しもう～

① ② ③ を膨らませる仕掛け

Action

- ・ 友達と話し合う活動の設定
- ・ Dスタディで学びたいことを考える機会の設定
- ・ 自分の思いをイメージマップの形で可視化
- ・ 気付いたことを友達と伝え合う活動の設定
- ・ 改善策を考え、実行する機会の設定
- ・ 料理をする際に大事なことをまとめる機会の設定



つながりミーティングⅡ

事例対象の生徒を設定し、小中高のつながりの視点で生涯学習力について確認・検討。



エピソードの見取り（考察）から
次単元の授業づくりに向けて



- 人 ・ 友達の意見を聞き、自分の考えに自信をもったり新しい視点で考えたりする。
- 情 ・ 困ったときに相談したり解決策を調べたりする。
- 興 ・ 友達や専門家の意見を聞いて、新しいことに興味をもつ。



Dスタディ月グループ ～旅行を楽しもう②～



人情興を膨らませる仕掛け

- ・意見を出し合い、校外学習を立案
- ・外出に必要な情報の収集
- ・友達が出掛けたい場所を知る機会の設定



つながりミーティングⅢ

事例対象の生徒について、小中高のつながりの視点で生涯学習力について再確認・再検討。



エピソードの見取り（考察）から
次単元の授業づくりに向けて



- 人 ・ 友達の意見を聞き、自分の考えに自信をもったり新しい視点で考えたりする。
- 情 ・ 困ったときに相談したり解決策を調べたりする。
- 興 ・ 友達や専門家の意見を聞いて、新しいことに興味をもつ。



Dスタディ月グループ ～ファッションを楽しもう～



人試興を膨らませる仕掛け

- ・友達と意見を出し合いショーを開催する
- ・専門家から流行やTPOに応じた服について学ぶ機会の設定
- ・様々な衣服に触れる場の設定



つながりミーティングⅣ

年間の振り返りと生徒の変容の分析。
次年度に向けた方向性の検討。



- 自 ・ 好きなことややりたいことを選ぶ力を付けるためには、自己決定、自己選択する機会を重ねることが必要。年齢が上がるにつれて、「周りの人からどう見えるか」という他者意識も育むことが大切なのではないか。
- 試

評価ツールとしてのエピソードシート

高専部 Dスタディ (生活単元学習) 雪グループ 「楽しむぞ! 挑戦するぞ! ~調べて調理しよう~」

エピソードシート①

人 情 試 自 興 好 夢

<子どもの現状と単元を通して育みたい姿>

<p><教育的ニーズ> やるべきことを考え、自分で判断して行動に移す。</p> <p>人 自分から関わろうとすることは少ないが、友達からの働き掛けを受け入れ、一緒に活動する。</p> <p>情 インターネット検索をして情報を集めたり、条件と照らし合わせて情報を取捨選択したりする。</p> <p>試 友達の様子を参考にして、活動に取り組もうとする。</p> <p>自 自分の好きなことや興味のあることを表出できる。</p>	<p>・自分の気になることを友達や教師に伝えたり、分からないこと聞いたりしながら、情報収集や調理をする。 (人情)</p> <p>・気になることを自分から伝えることは少ないが、分からないことを自分から聞いて活動することが増えた。</p>	<p><教育的ニーズ> 新しいことに挑戦し、好きなことや得意なことを増やす。</p> <p>人 友達や教師との関わりを好み、一緒に活動したり、やりとりを楽しんだりする。</p> <p>情 検索する言葉を絞って必要な情報を得たり、活動から感じたことを言葉で表現したりする。</p> <p>試 簡単な制作活動や好きなことは試行錯誤しながら活動を楽しむ。</p> <p>自 やってみたいことや将来なりたいたいものなど、明確な思いがある。</p>	<p>・活動を振り返り、課題を解決するためにどうすべきかを自分で考えたり、調べて情報を集めたりする。 (情 試)</p> <p>・課題を解決するために必要なことを考え、発表したり、複数ある解決策の中から、理由をもって選択した。</p>
<p><教育的ニーズ> 活動の優先順位を考えて行動したり、自分の考えを進んで伝えたりする。</p> <p>人 人との適切な関わり方が分かり、自分から人と関わろうとする。</p> <p>情 経験したことを基にやり方を覚えたり、工夫したりする。</p> <p>試 何事も完璧でありたいという気持ちが強く、確認しながら慎重に取り組むことが多い。</p> <p>自 経験したことを振り返り、自分の得意不得意などを考えることができる。</p>	<p>・「やってみよう」と思ったことに対して、自分から情報を収集・選択したり、実際に試してみたりする。 (情 試)</p> <p>・やってみようことを明確にし、自分からインターネット検索やインタビューをして、情報収集・選択をした。</p>	<p><教育的ニーズ> 自分の役割が分かり、責任をもって最後まで取り組む。</p> <p>人 一方的に話すことがあるが、友達との関わりが好きで、話し掛けたり、一緒に活動したりする。</p> <p>情 文章や写真などの視覚情報を処理することが得意である。</p> <p>試 失敗すると不安定になることがあるが、工夫や改善によって成功することが分かってきた。</p> <p>自 楽しかったことを自分の好きなこととして周りに伝える。</p>	<p>・よりよくするためにはどうしたらよいかを考え、自分から必要な情報を集めたり、解決方法を試したりする。 (情 試)</p> <p>・予想をしたり、進んで必要な情報を集めたりし、よりよくするための方法や解決策を考えて発表した。</p>
<p><教育的ニーズ> 自分の考えを言葉で伝えたり、相手の思い掛けにはっきり答えたりする。</p> <p>人 内容を理解せず同意してしまうが、友達と一緒に活動することで安心感をもって取り組む。</p> <p>情 タブレット端末を活用して情報を集めることを好む。</p> <p>試 自分から取り組むことは少ないが、うまくいかないときは再挑戦したいという気持ちを伝える。</p> <p>自 好きなことを問いつけたり、経験した学習活動を答える。</p>	<p>・うまくできたことや難しかったことを成功例と比較し、解決策を考えて教師や友達に伝える。 (人情 試)</p> <p>・自分が作ったものと写真を見比べ、色の違いに気付いた。友達の考えを参考に解決策を決め、教師に伝えた。</p>	<p><教育的ニーズ> 相手からの質問内容を理解し、自分の気持ちや考えを適切な言葉で伝える。</p> <p>人 友達と関わるのが好きで、会話を楽しんだり、自分から誘い掛けたりする。</p> <p>情 インターネット検索や質問で集めた情報を大まかに読み取る。</p> <p>試 自分で判断したことに自信がなく、周りの様子を確認し、まねながら活動に取り組む。</p> <p>自 うまくできたことや難しかったことを整理しようとする。</p>	<p>・調理や収集した情報から、自分が分かるものを選択し、友達や教師に伝えたり、試したりする。 (人情 試)</p> <p>・複数ある情報の中から、自分が分かるものや一人でできそうなものを選択し、教師や友達に伝えた。</p>

エピソードシート②

<単元のエピソード> ※学びの軌跡をたどるように記述する

人 情 試 自 興 好

<p>児童・生徒の姿・発言等</p> <p>・授業が始まる前、「家でウィッシュリストを作ってみました」と話す。家庭で食べた「韓国風トマトサラダ」の材料と作り方を母に聞き、自分でまとめたスライドを見せる。それを授業で紹介すると、友達に「すごいな～」と言われ、笑顔になる。</p> <p>・ウィッシュリストのページを紹介し合う時間では、友達の発表を聞いて「食べたことがないので作ってみたいと思いました」と感想を話す。授業で使ったブリッズのレシピを持ち帰るよう伝えると、「これがあれば、家でも作れるね、〇〇くん」と話す。「家でも作る？」と友達に問いつけるが、「僕は多分無理」と言われ、レシピを片付ける。</p> <p>・夏休みに授業で作った照り焼きチキンを家族に振る舞う宿題があることを伝えると、その週末に作り、家族から「98点」と言われたことや「もう少し甘くしたい」という思いを教師に伝える。また、授業で確認したポイントに気を付けたら上手にできたことを</p> <p>・夏休みに照り焼きチキンとプリンを作り、「どっちも成功でした」と教師に話し、家族からのコメントが書かれたスライドを見せる。</p> <p>・堀江先生が来校される日、「今日は堀江先生が来ますね」「プロの入りですね」と教師に話す。堀江先生の実演コーナーでは、手元の様子をじっと見つめたり、「ああ」と言いながらうなずいたりする。</p>	<p>考 察 (人・モノ・コトとの関わり、わかとはモデルの視点)</p> <p>自分から他者に関わり、気なることを質問して情報を収集した。収集した情報を分かりやすく整理してまとめた。(人情)</p> <p>・「いろいろな料理を作れるようになりたい」「コックさんになりたい」という本人の思いや願いと今回作成したウィッシュリストに関連があり、主体的な姿が見られたのではないかと感じた。(自 興)</p> <p>自分が注目していなかった料理や食材なども、友達で紹介してくれたことによって興味関心や「やってみよう」という気持ちが高まったのではないかと感じた。(情 試)</p> <p>・授業でできるようなレシピを家でやってみようという気持ちがあるが、学校以外の場所や異なる状況で行うことに対する不安があったのではないかと感じた。(人情 試)</p> <p>・宿題をきっかけにして、家庭での調理に挑戦することができたのではないかと感じた。(人情 試)</p> <p>・大好きな家族から感想をもらい「もっと上手になりたい」という気持ちが高まったのではないかと感じた。(自 興)</p> <p>・感想を基にどのように改善したいかを具体的に考えた。(情 試)</p> <p>・家庭で照り焼きチキンを作った経験から自信をつけ、プリンの調理にも挑戦することができたのではないかと感じた。(人情 試)</p> <p>・見たり、聞いたりして、正しいやり方を覚えようとする。(人情 試)</p> <p>・グループの中では、友達に頼られる存在。真面目で心配性な性格であるため、堀江先生は正解を教えてくれるという安心感があるのではないかと感じた。(人情 試)</p>
---	--

<単元に関連したエピソード>

<p>学校生活</p> <p>・技能競技大会に向けて、放課後に練習をしている友達を見て「僕もやりたいので、放課後に残ってもいいですか」と担任に相談をした。接客で話す内容を覚えることが難しかったが、自分からやりやすいようにスライドにまとめ、「これで覚えられそうです」と話した。練習を繰り返すうちに、新しく覚えることがあると、スライドに手を加えたり、新しいスライドを追加したりした。また、「カフェで働いてみたい」という新しい夢を見つけた。</p>	<p>家庭生活</p> <p>・作業学習でサービス班に所属し、窓清掃や机拭きに取り組んでいる。祖父の家で窓清掃に使う道具を見付け、自分から窓をきれいにした。また、「作業学習で正しいやり方を覚えた」と家族に話し、食後のテーブル拭きに進んで取り組んだ。</p> <p>・祖父の家にあった竹を使って竿燈の技を練習した。「昨日は、〇秒できました！」と自分から担任に報告をした。</p>	<p>地域生活</p> <p>・地域での作業製品販売会の際、友達や引率教員と一緒に昼食をとった。最初はパークカレーを選んだが、メニューからナスとひき肉のカレーを見付けると、「ウィッシュリストにあったやつと同じだ」と話した。最初は迷っている様子だったが、友達もナスとひき肉のカレーを食べることが分かること「初めてだけれど、僕も食べてみます」と話し、注文した。食後には、「挑戦したら、おいしかったです」と話した。</p>
---	--	--

第3章 アンケート調査の結果



アンケート調査の結果

1 保護者アンケートの結果

(1) 内容と方法

第3回つながりミーティングの事例対象児童生徒の検証の一環として、在籍児童生徒の保護者を対象とした「生涯にわたる豊かな学び」に関するアンケート調査を実施した。なお、回答率は全校児童生徒数の87.2%であった。

(2) 結果

各調査項目の回答の一部を抜粋したものが、以下の通りである。なお、全回答をテキストマイニング分析ツール「ユーザーローカル AI テキストマイニング」により分析した。その際、出現頻度が高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示する「ワードクラウド」の結果を図で示した。

項目1：お子さんが最近、家庭や地域で楽しんでいること、頑張っていることを教えてください。

- ・家庭でお手伝いを率先してやろうという姿が増えてきました。例えば、洗濯物(特にタオル)を畳もうとか、食事の配膳などをとても頑張っています。
- ・料理 (特にスクランブルエッグを作ることがマイブームのようです。)
- ・水泳を習っていて出来ることが増えてきています。また、プールで一緒になる地域の子供達にも慣れてきています。
- ・地域の人との交流はないが、家ではユーチューブを見たり、ゲームをしたりして楽しんでいる。
- ・家の掃除機かけや洗濯を頑張ってくれています。また、ゴミ収集のカレンダーを見て分別してゴミ袋に入れて、指定の曜日に捨ててに行ってくれます。 など

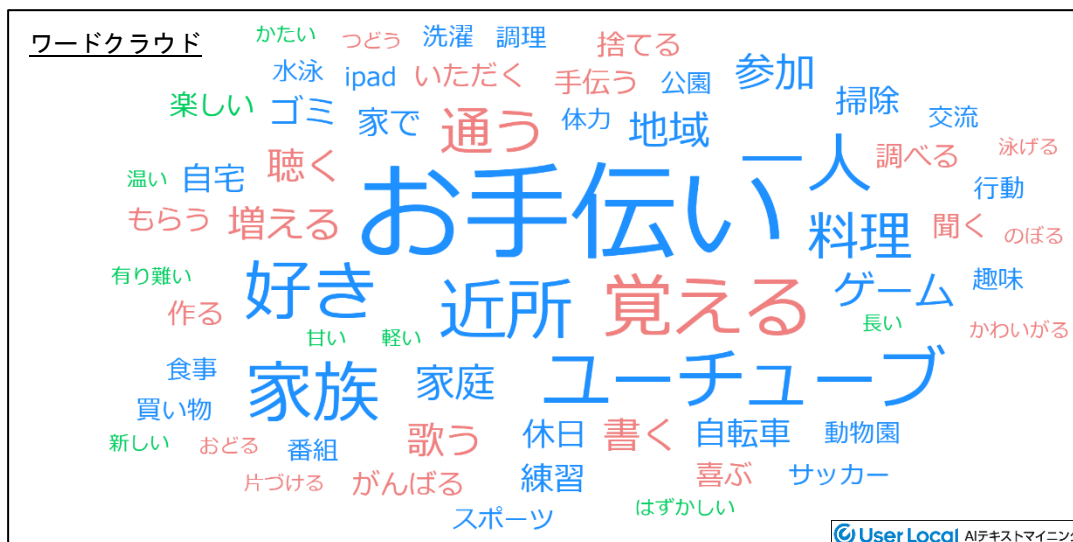


図1 家庭、地域で楽しんでいること、頑張っていること (項目1)

項目2：お子さんを見て、「学校での学びが他の場面に生かされている」「家庭や地域での学びが、学校で生かされている」と感じたことがあれば、教えてください。

- ・学校でのトイレトレーニングのおかげで家でのトイレもスムーズにいけている。また、当番活動などを行っているからか、お手伝いも進んでやる日が増えたように感じる。
- ・誰にでもあいさつしたり、声をかけたり、疑問に思ったことは質問したりと、人とのかわりが大好きで、学校で学んでいると思っています。
- ・進んでお手伝いをする(人の役に立とう、喜んでもらおうとする)や、自分でやろうとすること(着替え、食事など)。
- ・修学旅行でSuicaを使って電車を利用したことで、家族旅行の際も活用している場面を見たとき。
- ・サッカー部に入ったことで、休みの日も公園でサッカーをやりたいようになった。 など

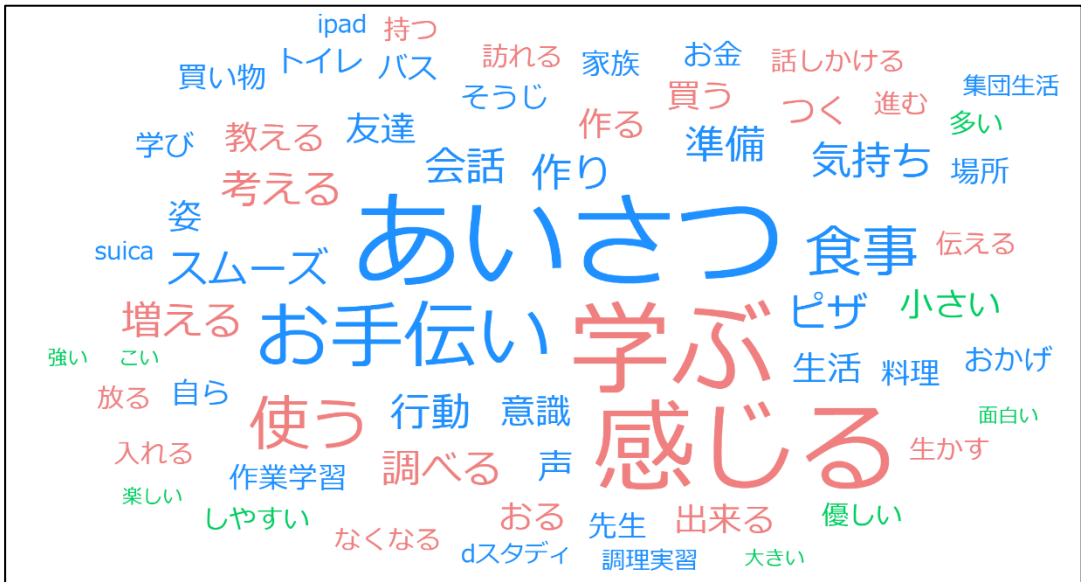


図2 学校での学びが他の場面に生かされていること等（項目2）

項目3：卒業後のお子さんのどんな姿を望んでいますか。また、現在お子さんに身に付けてほしい力があれば、教えてください。

- ・自分の役割を果たしながら、好きなことを見付け、毎日の暮らしを明るく過ごしてほしい。
- ・自分の好きなことがあって、夢中になれるものがある毎日。
- ・ベースになる居場所があって、その他に地域にたくさんの知り合いや、なじみの場所がある。
- ・集団の中でがんばれる力と楽しいことを見つけていける力がついたら嬉しい。
- ・働いて得たお金で本人の趣味等、余暇を過ごすことができれば良いと思っています。
- ・困った時に臆することなく周りへ助けを求められるようになってほしい。
- ・人前で自信をもって話せるか、責任感のある行動、最後まで業務に取り組むこと。 など

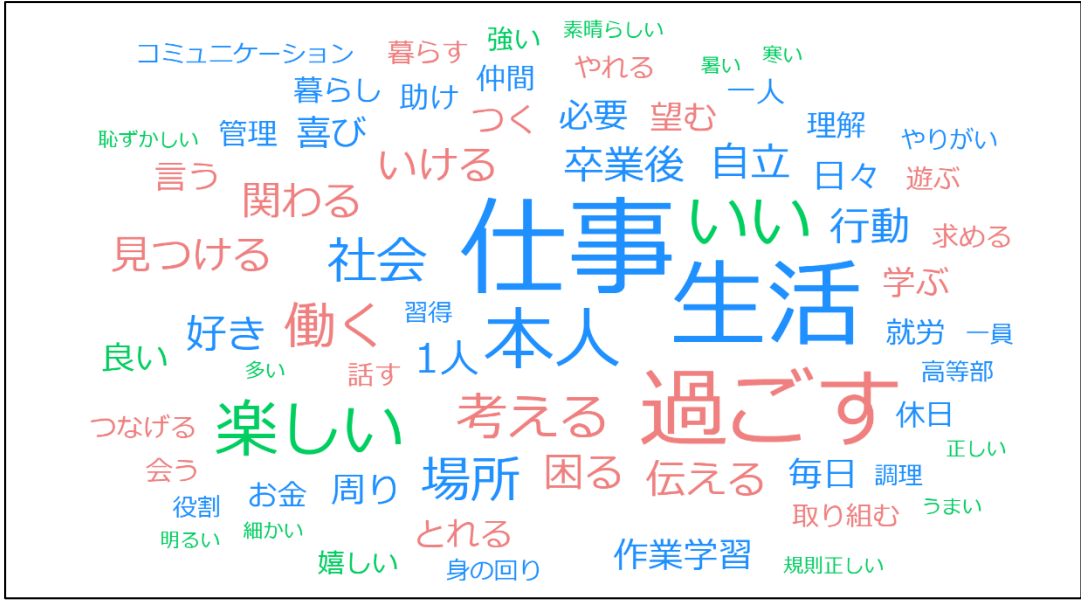


図3 卒業後の望む姿，身に付けてほしい力（項目3）

項目4：「生涯にわたって学び続ける」ために、一番大切だと考えることを教えてください。

- いろいろ経験を積んでみて、何か本人なりに「達成感」を得られることが大切かなと思います。そのためにも「素直」でいられるように願っています。
- 楽しみながら学習すること。
- 失敗したり、くじけそうになっても「立ち直れる力」。(周りから認めてもらっているという自信やここをがんばれば、さらに成長できるという「向上心」を常に持ち続ける)
- 学び続ける「環境」が最も大切。
- 自分の好きなこと、興味をもったことに、「チャレンジ」して行ってほしいと考えます。
- 人の話を「素直」に聞ける。あいさつ、ありがとう、ごめんなさいを素直に言えること。
- 学ぶことへのきっかけ作りや、気づきの視点を持たせられるような親、周囲のサポート(環境)が一番大切だと感じます。など

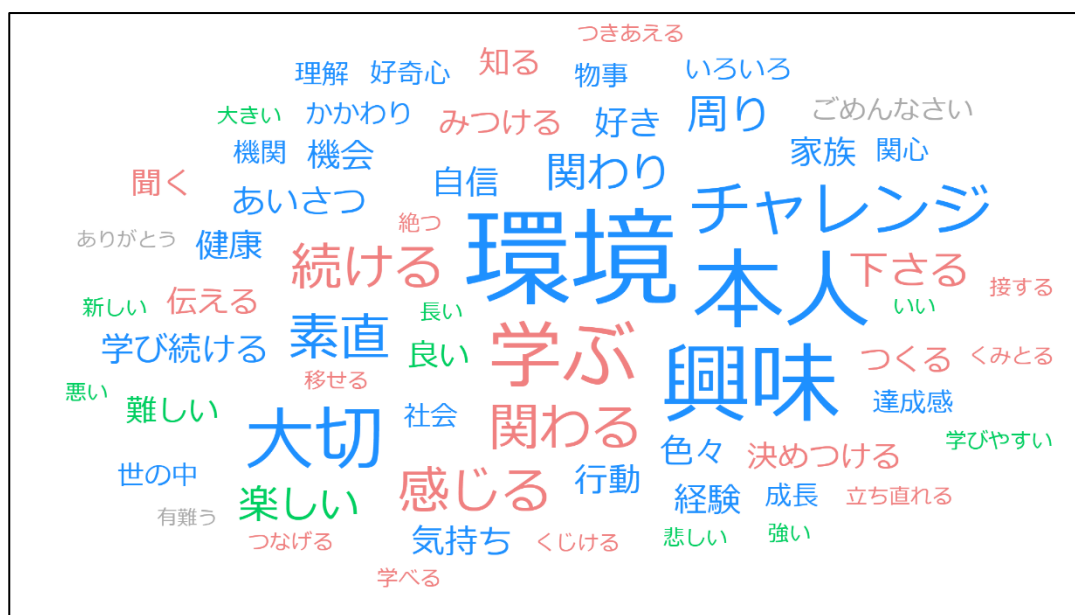


図4 「生涯にわたって学び続ける」ために、一番大切なこと(項目4)

2 卒業生アンケートの結果

(1) 内容と方法

「生涯にわたる豊かな学び」について卒業生とその保護者に対するアンケート調査を実施した。「私の応援計画」に関する研究を始めた平成26年度以降の卒業生を対象として、紙面でのアンケートを依頼し、回答を求めた。なお、回答率は対象とした卒業生の53.3%であった。

(2) 結果

各調査項目の回答をグラフ化し、表で示すとともに、自由記述による回答は、テキストマイニング分析ツールである「ユーザーローカルAIテキストマイニング」により分析した。その際、出現頻度が高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示する「ワードクラウド」の結果を図に示した。

①卒業生

項目1：卒業後、学び続けている学習があるか？（表1）

項目2：どんな学習を続けているか？（図5）

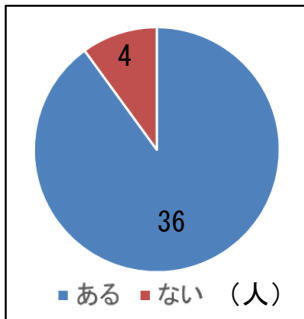


表1 卒業後の学びの有無

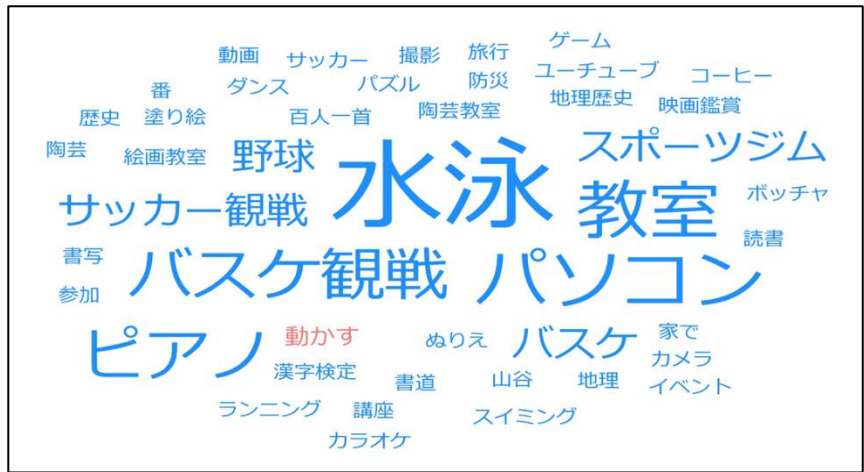


図5 卒業後の学びの内容

項目3：学習を続けている理由は？（表2）

- 1 様々な経験を通して成長するため
- 2 健康のため（2位）
- 3 仕事に必要
- 4 友達との交流
- 5 ボランティア活動に生かす
- 6 人生を豊かにするため（3位）
- 7 やって楽しい（1位）

(人)

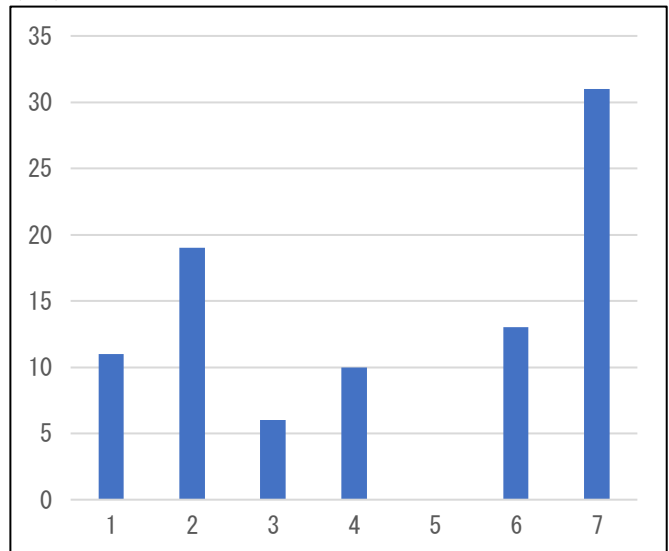


表2 学習を続けている理由

項目4：学ぶ機会や情報が近くにあるか？

（表3）

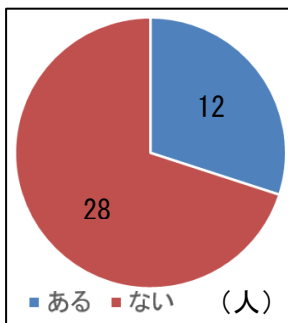


表3 学びの機会、情報の有無

項目 5：卒業後、学びたいときに困ること？

- 1 学習に関する情報がほしい（1位）
- 2 学習の機会がほしい（2位）
- 3 学習をする時間がほしい
- 4 友人や仲間が存在がない
- 5 社会の理解がほしい（3位）
- 6 学習をするお金の余裕がない
- 7 交通手段がない

(人)

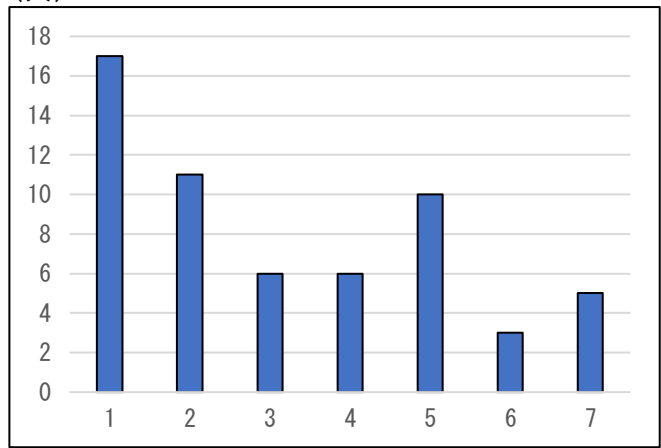


表 4 学びたいときに困ること

項目 6：卒業後、役に立った学校での学びは？

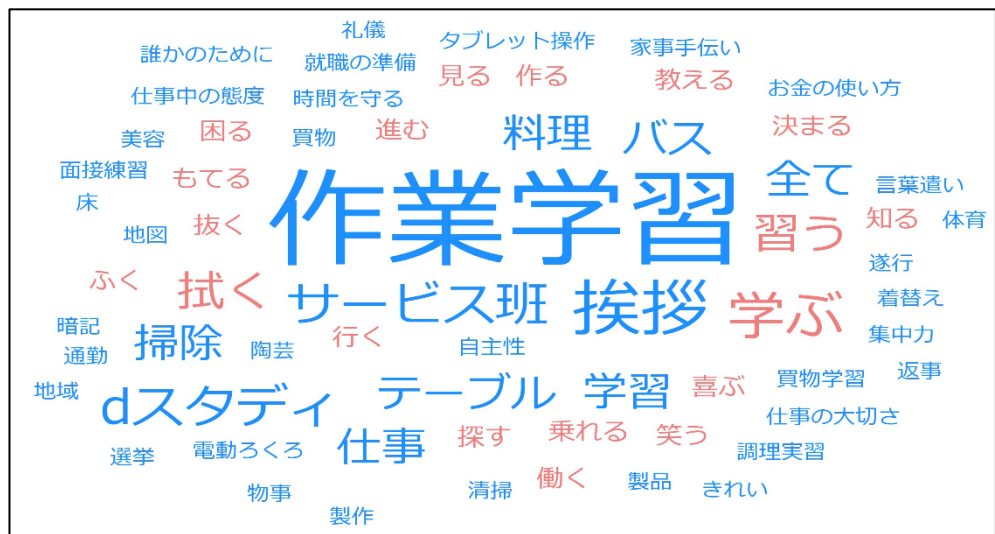


図 6 卒業後、役に立った学校での学び

②卒業生の保護者

項目 1：卒業後、新たに興味をもったことや始めたことは？

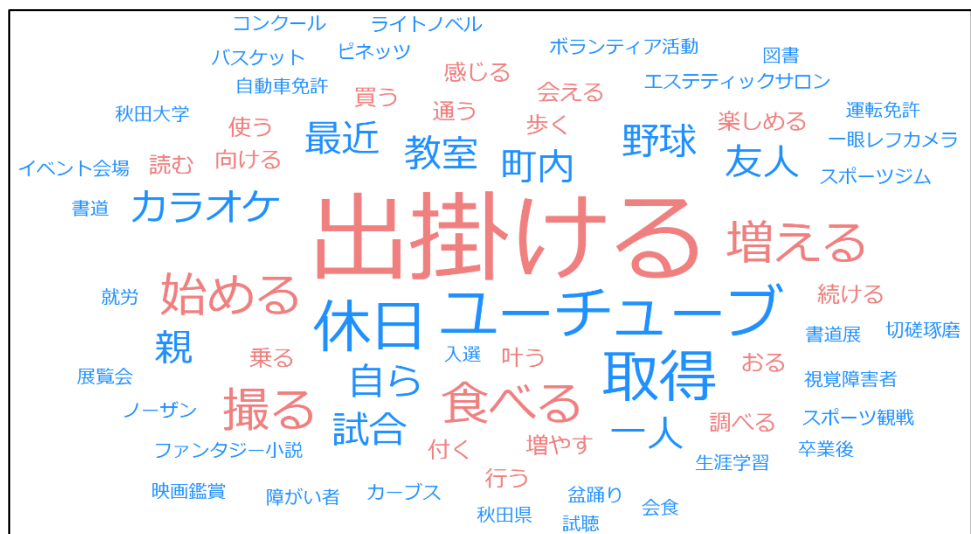


図 7 卒業後、新たに興味をもったこと、始めたこと

項目 2 : 卒業後の生活に役立っている学校での学びは？

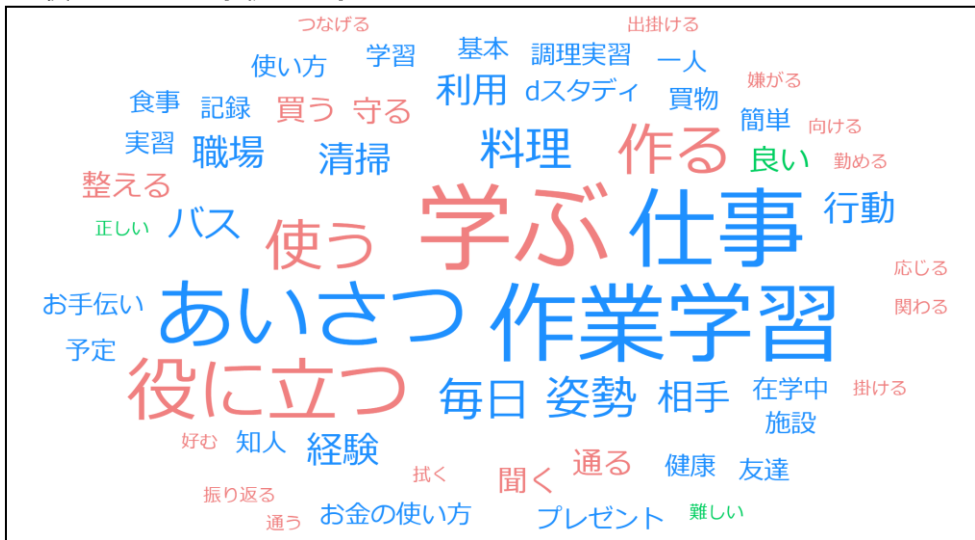


図 8 卒業後の生活に役立っている学校での学び

項目 3 : 就労先以外で利用している地域の場合は？

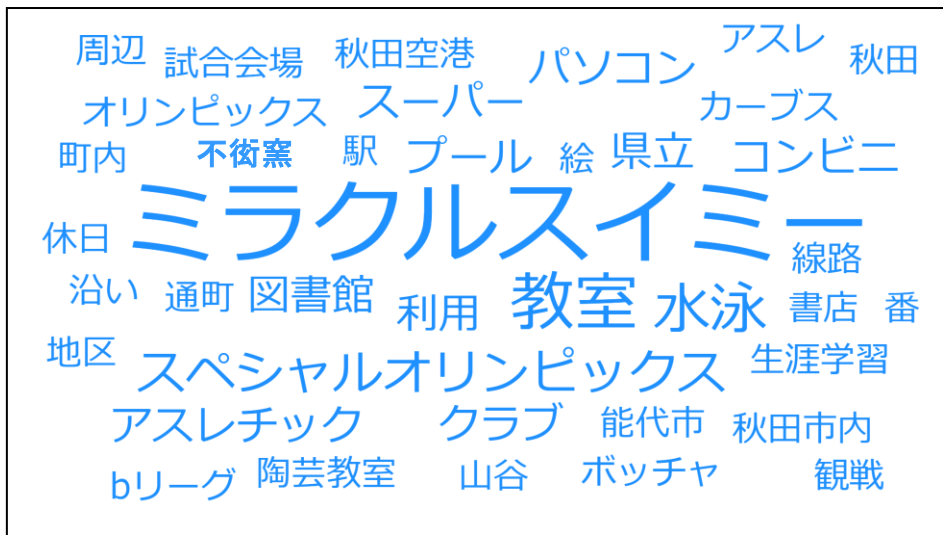


図 9 就労先以外で利用している地域の場合

項目 4 : こんな場所があったらいいな？

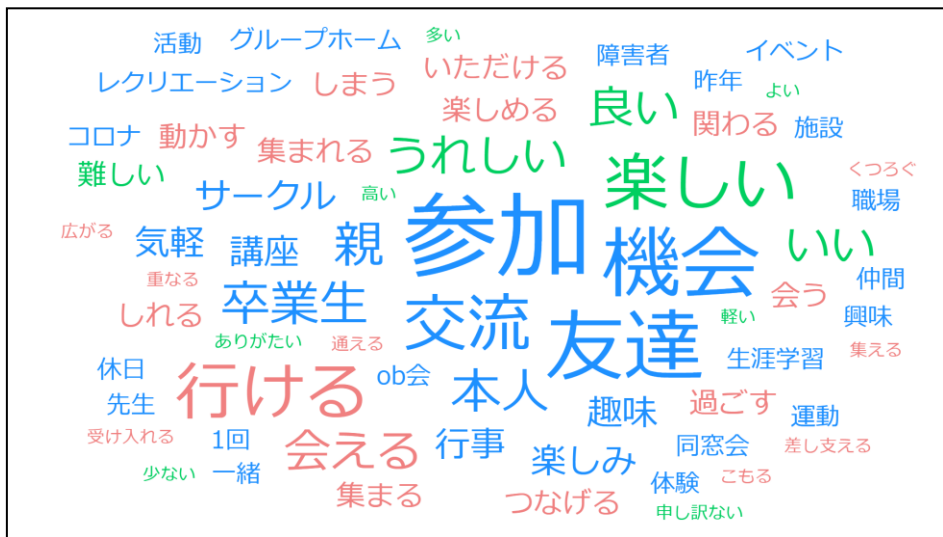


図 10 あったらいい場所

3 アンケート調査結果の考察

(1) 在校生の保護者アンケート結果の考察

- ・項目1から、多くの児童生徒が家庭でのお手伝い等の家族の一員として各家庭の実情に合わせた様々な役割に取り組んでいることが分かった。その際、学校で学んだ掃除や調理等の学習の経験が生かされていた。更に、校外学習での公共機関の利用や買物学習の機会は、休日に地域の中で楽しむことにつながっていることが推察された。
- ・項目2から、挨拶や会話等のコミュニケーションに関わる学びが多くの中で生かされていることが分かった。また、学校での学びが食事や排泄等に関わる日常生活動作や、お金を使用する買い物や公共機関の利用等に般化されていることも伺えた。そして何より、般化される場面では、自分で考えたり、調べたりする主体的な姿が多く見られていることが推察された。
- ・項目3から、多くの保護者が卒業後は、本人に合う仕事を見付け、働いてほしいと考えていた。また、楽しい生活を送るために、自立するための力を身に付けることや、自分の居場所を見付け、困ったことを伝えるなどのコミュニケーション能力を育ててほしいと挙げていた。これは、「働く」、「暮らす」、「楽しむ」の3つの視点について更に広げ、深めてほしいと願っていると言える。
- ・項目4から、保護者は生涯にわたって学び続けるためには、学ぶ機会や本人をサポートする周りの環境が最も大切であると考えていた。また、本人の興味関心や好奇心などのチャレンジ精神が必要であると挙げていた。そのためにも健康で素直な心を持ち、楽しい経験を積むことや失敗から立ち直る力（レジリエンス）が必要と考えていた。

(2) 卒業生アンケート結果の考察

- ・項目1, 2から、回答した多くの卒業生が現在も学びの機会をもっていることが分かった。水泳やピアノ、パソコン等を多く学んでいた。また、スポーツ観戦をしたり、スポーツジムを利用したりする卒業生も多くいた。
- ・項目3から、学習を続けている理由は「やっていて楽しい」「健康のため」「人生を豊かにする」の順で回答が多かった。中でも「やっていて楽しい」の回答数は、2番目に多い理由の「健康のため」よりも10以上も多いことから、本人のやりがいや達成感は、学びを続ける理由として重要であると推察された。
- ・項目4, 5から、学ぶ機会や情報は本人の身近にはなく、学習に関する情報や機会を求めていることが分かった。
- ・項目6から、卒業後に一番役に立った学校での学びは、作業学習を多く挙げていたことが分かった。これは、日々の挨拶や返事、時間を守る等、基本となる自主性や責任感を学校で学んだと推察された。更には、料理や清掃、タブレット操作等のスキル面と、仕事中の態度や言葉遣いなどの態度面が役に立った学校での学びとして挙げられた。

(3) 卒業生の保護者アンケート結果の考察

- ・項目1から、卒業後に新たに興味をもち始めるために、家庭から出掛け、地域資源を活用していることが分かった。また、家庭でユーチューブを見るといったことも多く挙げられた。
- ・項目2から、卒業生の保護者が考える生活に役に立っている学校の学びは、作業学習などの働くための学習であった。また、挨拶をしたり、手伝いとして料理や掃除をしたりする等、人のために働き、役割を果たすことが生活に役立っている学校の学びとして多く挙げられた。
- ・項目3から、水泳に関わる地域の場を多く利用していることが分かった。また、図書館や本屋、駅や公共施設等を利用していることが分かった。在籍時に利用していた地域の場を卒業後も引き続き利用している卒業生が多くいることが推察された。
- ・項目4から、友達や卒業生と一緒に交流できる機会を求めていることが分かった。

第4章 研究のまとめ



研究のまとめ

1 成果と今後に向けて

今年度の研究実践を通して、以下の成果と課題、次年度に向けての方策が挙げられた。

(1) 成果 (○) と課題 (△)

① 児童生徒の夢や願いを基点とした授業づくり

- 【小学部】 ○学びに向かう児童の姿を引き出す授業の実現
△「私の応援計画」と「わかはとモデル」をつなぐ手立ての検討
- 【中学部】 ○実態把握から評価・改善の流れによる生涯学習力の高まりの実感
△地域との関わりにより得られる学びの効果の検証
- 【高等部】 ○生徒の思いや願いを尊重した授業の展開
△「私の応援計画」と「わかはとモデル」の結びつけ方

② 「わかはとモデル」を活用した児童生徒の見取り

- 【小学部】 ○児童の内面に着目した見取り方の広がり
△子どもの夢や願いに立ち返る評価の在り方
- 【中学部】 ○「人とつながる」等の視点の広がりによる他の視点への作用効果
△「わかはとモデル」の視点に分類できない出来事や内面の動きの見取り
- 【高等部】 ○「わかはとモデル」の視点による生徒の具体的な姿の見取りの充実
△卒業生へのアンケート結果の分析、検討

③ 「わかはとシステム」の構築に向けて

「わかはとモデル」の分析と改善

- 授業研究会やつながりミーティングの際に、「わかはとモデル」を活用することで、児童生徒の生涯学習力の高まりを学校や家庭、地域の視点で見取り、教師間で分析することができた。また、「わかはとモデル」の4つの視点を教師が様々な場面で意識できるようになってきた。
- △分析と改善を積み重ねていく中で「わかはとモデル」の4つの視点に当てはまらない児童生徒の姿についてもみえてきた。また、資質・能力との関係性がみえないことが課題として挙げられた。

「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用

- 児童生徒との面談時に、「わかはとモデル」の視点を生かし、対話を大切にすることができた。
- △保護者面談の際に、「わかはとモデル」の視点に関わる児童生徒の成長や変容を伝えることが不十分であった。また、児童生徒本人が振り返った「私の応援計画」を次年度以降に引き継ぎ、本人が活用できる工夫が必要であると感じた。

校内外のつながり、卒業後のつながりの検証

- つながりミーティングは、他学部の視点を授業づくりや授業改善に生かしたり、授業以外の様子(家庭や地域)から児童生徒の変容を見取ったりする機会として有効であった。また、そのことで多面的かつ複数の目による実態把握と評価が充実した。
- アンケート調査を通して、保護者の思いや願い、卒業生の生涯学習の現状を知ることができた。
- △つながりミーティングの実施時期や回数は、わかはとシステムの構築に向けて検討が必要であった。
- △「わかはとモデル」の生涯学習力を見取る4つの視点と基盤となる3つの視点が卒業後にどのように生かされ、広がっているのかを調査、分析、検証する必要がある。

家庭や地域との連携

- PTAの際に保護者に研究の説明をしたり、生涯学習に関する保護者アンケートを実施したりすることで、本校の研究の理解を促し、保護者と同じ方向で児童生徒の学びを考えることにつながった。
- △地域の活用は各学部で授業実践の中で行われているが、生涯学習力を高めるための視点からも地域展開によって得られる学びを必要なこととして共通理解するとともに、地域への発信や連携についてはまだ十分な状況とは言えないため、今後更に進めていく必要があると感じた。

「エピソードシート」の活用

○事例対象の児童生徒のエピソードを基に「わかはとモデル」の視点での見取りを行うことで、以前よりも児童生徒の意図や思い、成長と学びの広がり进行分析できるようになってきた。

△児童の夢や願いに立ち返って評価する視点が不十分だった。また、エピソードを記録し、分析することに時間的な負担があった。今後更にエピソードシートを改善し、より使いやすく持続可能な評価のツールにしていく必要があると感じた。

その他

○「私の応援計画」を活用し、児童生徒の夢や願いを大切にしたい授業づくりを進めることで、児童生徒の主体性を引き出す授業につながった。

○指導案の様式に「わかはとモデル」を組み込んだことで、関連を可視化できるとともに、生涯学習力を見取る視点を生かした授業づくりや授業改善ができた。

○「私の応援計画」「つながりミーティング」「わかはとモデル」のそれぞれの取組が、児童生徒や授業づくりを中心としながら、つながることができた。

△「わかはとシステム」の構築に向けて、「私の応援計画」「つながりミーティング」「わかはとモデル」の関係性を明確にするとともに、持続可能なシステムづくりを更に進めていく必要がある。

(2) 次年度に向けて

①「わかはとモデル」と育成を目指す資質・能力との関連性の検討

本校は、児童生徒本人を中心に作成・活用する「私の応援計画」に基づき、生涯にわたって学び続けていく資質・能力の育成に努めてきた。しかし、現在使用している生涯学習力を見取る視点である「わかはとモデル」と現行の学習指導要領で示されている育成を目指す資質・能力の3つの観点との関係については、十分に検討できていない。今後更に検討や検証を進めていきたい。

②児童生徒の評価、学びの履歴の可視化

学習指導要領の前文には、「児童生徒が、『生涯にわたる学習とのつながりを見通す』ためにもキャリア・パスポートは大切なものである」と示されている。今年度の研究を通して、「私の応援計画」の重要性や継続性を更に感じた。今後、本人自身による評価や学びの履歴を可視化するツールであるキャリア・パスポートとして「私の応援計画」を活用するなど、更なる充実を検討していく。

③保護者、地域との更なる連携

保護者、地域との連携はこれまでも大切にしてきたものである。しかし、今後も続いていく、「生涯にわたる豊かな学び」に向け、ヒト・モノ・コトにどのようにつながっているのかを空間軸と時間軸で児童生徒の変容を見取っていくためには、保護者や地域との更なる連携は必要不可欠であると考えられる。どのような点について連携を図るのか、どのような方法があるのかを次年度も考えていく。

④「わかはとシステム」を中核とした教育課程の編成

今年度、少しずつ見えてきた「わかはとシステム」を本校の教育課程の中に位置付け、今後も持続可能な仕組みとして確立していく必要があると考えている。そのためには、先ほど述べた「私の応援計画」の更なる充実や各種の教育計画の整理や関連を図っていきたい。



公開研究協議会の記録

秋田大学教育文化学部 附属特別支援学校
令和5年度 公開研究協議会 (二次案内) 参加無料

研究主題 (1年次/2年計画)
生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
～児童生徒の夢や願いを 基点とした「わかはとシステム」の構築～

令和6年1月27日(土)
参集型開催 + オンデマンド配信

本校では、「生涯学習力」の育成を目指し、児童生徒、授業ファーストの研究に取り組んでいます。
今年度(1年次)は、「私の応援計画(個別的教育支援計画)」と「生涯学習力」の育成をつなげる「わかはとシステム」の構築を進めています。
※ 主体的にヒト・モノ・コトに関わり生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力、と定義しています。

日程 ※午前のみ、午後への参加も可能です!

8:50	9:20	10:10	10:25	10:50	11:00	12:10	13:00	14:00	14:15	15:30	15:50
受付	公開授業	移動	(研究説明) 全体会	移動	(授業研究会) 分科会	昼食・休憩	シンポジウム	休憩	講演	閉会	

公開授業および授業研究会

小学部 生活単元学習 ふたば学級(1,2年生)
「おはなしふたば～十二支のはじまり～」
授業者 武田茜 松尾佑美 平塚達也
研究協力者 鈴木徹(秋田大学教育文化学部 准教授)
進藤拓歩(総合教育センター 指導主事)

中学部 生活単元学習(2年生)
「ふしぎ発見! in こども園～交流会を楽しんでもらおう～」
授業者 下村光行 伊岡森真由 吉田みずわ
研究協力者 武田篤(秋田大学 名誉教授)
島津寛司(総合教育センター 指導主事)

高等部 生活単元学習(Dスタディ)月グループ(1～3年生合同)
「D スタチャレンジャーズ～ファッションを楽しもう～」
授業者 佐藤英里 高橋浩樹
研究協力者 藤井康博(秋田大学大学院 教授)
高橋基裕(中央教育事務所 指導主事)

シンポジウム

テーマ
「夢や願いの実現に向けた
高等部卒業後の豊かな学びとは?」

コーディネーター
：菊地一文 氏
シンポジスト
：本校卒業生
卒業生保護者
本校元職員
福祉関係者 等

卒業生2名の在学中、卒業後の学びのエピソードから学校、家庭、地域、関係機関等とのつながりや豊かな学びに向けたヒントを探ります。

講演

演題
「豊かな学びを未来につなげるために
～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」

弘前大学大学院
教育学研究科
教授 菊地 一文 氏

経歴
1992年から青森県内の養護学校で教壇に立ち、2008年からは国立特別支援教育総合研究所主任研究員や青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事として教育行政に携わる。広島大学大学院教育学研究科非常勤講師・客員准教授、植草学園大学発達教育学部准教授を経て、2019年より現職。

著書
確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A、東洋館出版社、2022。
知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて、ジヤース教育新社、2021、他。

交通案内

●バス
秋田駅西口バスターミナルから 中央交通バス
神田地野線 8番乗り場 約15分
赤川線 8番乗り場 約15分
「保戸野八丁」バス停下車 徒歩3分

●タクシー
秋田駅西口から 約10分 秋田空港から 約60分

申込み

申込みは右のQRコード、もしくは、URLからお願いします。
・締め切りは、令和6年1月16日(火)です。部分参加、昼食注文も可能ですので、申込みフォームで御確認ください。
・参加申込みいただいた方には、1月22日(月)までにメールにて資料をダウンロードできるパスワードをお伝えします。
なお、オンデマンド配信は、令和6年2月中旬を予定しております。
・秋田大学の学生は、担当教員を通して参加申し込み願います。

【問合せ】教職 宮野俊美 研究主任 池田和馬

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
TEL 018(862)8583
E-mail fuyo@sh.akita-u.ac.jp
http://www.sh.akita-u.ac.jp/

シンポジウムの記録 (グラフィックレコーディング※)

- No. 1 シンポジウム 登壇者
- No. 2 Aさんの語り
- No. 3 Bさんと保護者の語り
- No. 4 元職員の語り
- No. 5 福祉関係者の語り

講演の記録 (グラフィックレコーディング)

- No. 6～9 講演

※グラフィックレコーディングとは、ホワイトボードや紙に、会議や議論などの内容をデザインとして可視化し、整理していく手法です。

シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

シンポジウム 秋田大学教育文化学部附属 No.1
 特別支援学校 体育館

テーマ
**「夢や願いの実現
 に向けた高等部卒業後の
 豊かな学びとは？」**

コーディネーター
 弘前大学大学院
 教育学研究科
 教授 菊地一文氏

役割、やりたいこと大事!

A さん

B さん

B さん (母)

高橋基裕 先生
 元職員

神原音子 さん
 障害者就業・
 生活支援センター

A さん

H29高等部卒業

心に残っていること

1. 現場実習
 ↓ 誰とでも話せるようになりたい
2. 校外学習
 ↓ バスにどのように乗るか分かった
3. 作業学習
 ポーチなど作った
 全国大会出場
 ↓ 趣味にも

4. 生徒会活動
 卒業後意見をまとめる
 ことに役立つ

学ばなかったこと

1. メイク
 ↳ 卒業後必要
2. 働くために必要なこと
3. 相談場所
 ↳ 連絡先を知らない人も

個展 No.2

またやりたい
 インスタのせた!!

兄弟がいて
 いずれ一人暮らし
 家事に不慣れがある

やってみたい
 一人暮らし
 子育て支援員
 英語とギター
 みんなで集まれる
 場所づくり

**ポチヤを
 やりたい**

生涯学習センター

- ☑ 初めには防災について
- ☑ ボランティアとして
- ☑ 講座参加

**先生方に教えて頂き
 自分で調べて予約
 き、かけは学校
 バスにも乗れるように
 家事教えた
 小さなお母さんに**

シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

B さん

小学部から調理を学んだ

 小学部 → 高等部ピアノ

修学旅行で調べて計画することを学んだ

卒業後 **奨励賞**

- アトリエで絵を描く
- カーブスで筋トレ
一人で行っている

やりたいこと

- アトリエで絵の展覧会
- ドラマの聖地巡礼
- ミュージカルを見る
- よしもとのお笑いを見る

たくさん歌いたい
これから行く

豪華なマンション
買ってみたい

Q 何に夢中?
相棒に夢中
嵐に入りたい

Q 自分で決めて行動?
自分で決めたことが
大多数
家族も楽しんで行動

学校での学びがきっかけで
地域に支えられている
美容院も
小学部にバス1人で乗る目標達成

No.3

高橋基裕先生
11年間勤務 元職員

A さん

感情の起伏があった

高2で生徒会長
キャプテン → チームまとめた

役割 → Xリハリ
背中を叩ける 仲間の存在

惹かれるところ

- 話していると楽しい
- やるときはやる!

B さん

ハキハキしている!

中学部で病気に

病院で手術

元気になった

いいところ

- 人の良いところをさがす
- 人の気持ちがわかる
- 最後まで頑張る

力になっている
 家族のサポート
 健康
 前向きな気持ち

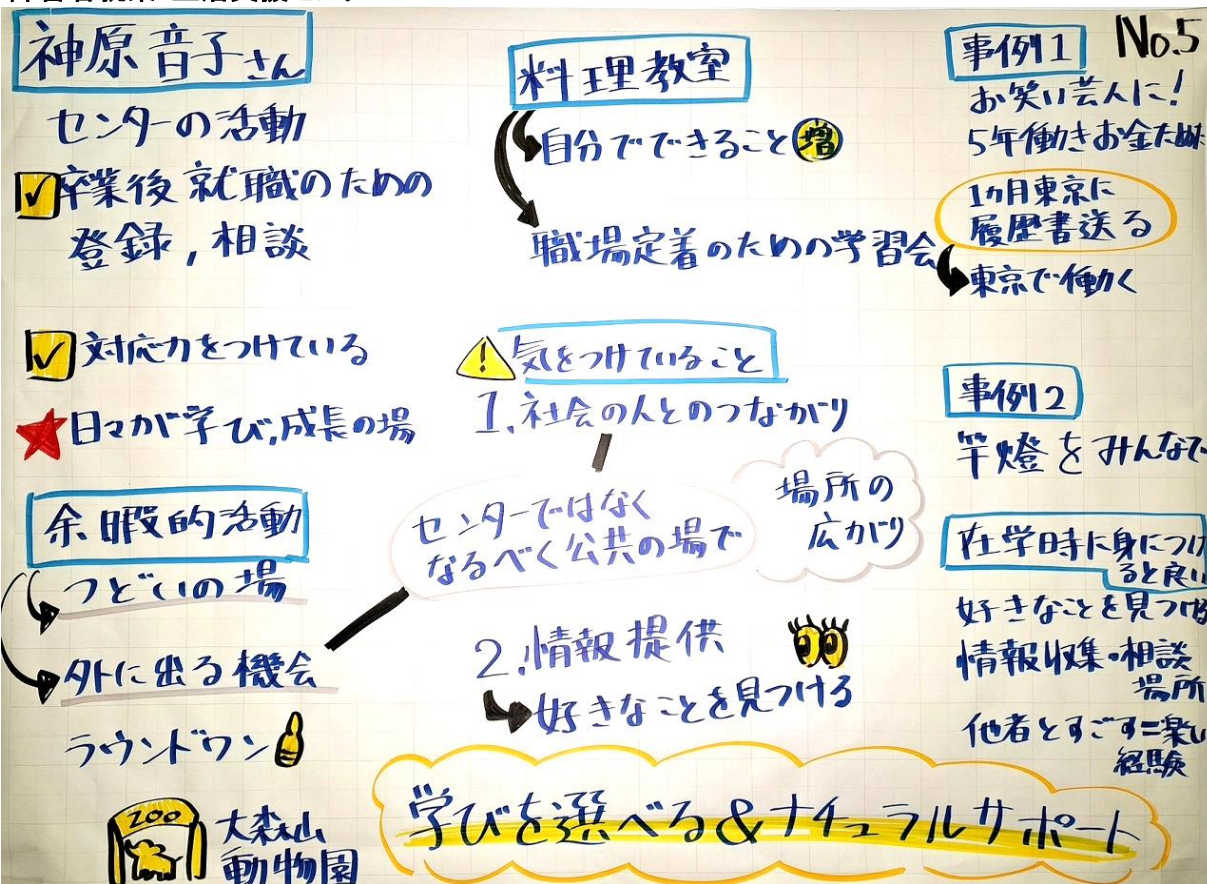
Q 応援計画について
自分のことを話せる
→ 将来役立つ
主体的に選択でき
自分で切り開く力
自分ごとの学びになっている

No.4



シンポジウム「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

障害者就業・生活支援センター



講演 「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」
弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

講演

豊かな学びを未来につなげるために

～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～

弘前大学大学院
教育学研究科
教授 菊地 一文 氏

キーワードは...

キャリア

E-ジェンシ

ウェルビーイング

→ 学習の中に取り入れられるように!

NO.6

1. 豊かな学びについて考える

語り合って具体化が必要

だれのため?
どこで?

どうやる?
どう活かす?

↓

具体的にどういふ支援が必要か? が見えてくる。

本日の公開授業での気づき!

子どもの行動・姿に「意図」があるのを見て「〇〇」

× 教えこみ 受け手 聞き手

「かたの霧田様」

↓

「手紙」あそび後変わった

他者意識の記述も!

自分の考えを決める時
相手の考えを決める時
の育ちがあった

他者 社会

自分の学び

目標 (自決) 具体的 大切

↑

ヒト・コト・モノの出会いが必要

④の 学ぶ意欲

思い

④の 学ぶ意欲

- 内容ごたけ型
- 関係ごたけ型
- 条件ごたけ型
- 自己ごたけ型

体験の積み重ね
学ぶ意欲が生まれる

NO.7

何に心が重くののか?

何をどう判断しているのか?

個別最適
な学び

子ども
を中心に

協働的
な学び
...が求められている

well-being に向けた Agency

周りの他者や社会に
いい影響を
与える力

講演「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」
 弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

2. ヒト・コト・モノをつなげた通じた キャリア発達支援

心が重んじられる 実際の学び / 主体的な 学び

英検 / 野鳥 / あいさつ

単元・総合学習

社会に影響する!

生活学習モデル

「居住地交流」の効果を例にぜひ語り合ってください!

ある親御さんからの

3. 対話とおし学びをつなぐ キャリアパスポート

個別の指導計画 → 本人の願いに注目して作成

対話のツール

活用

作成の枠外 → 指導に活用 → 変更OK!

- 可視化・具体化
- ICT活用
- 対話サイクルとマテリアル
- 教師の力量形成のために学び合おう

① 状況 ② 心情 ③ 背景 ④ 展望

① 将来につながる いまを記録

目標

キャリアパスポート

② しまにつながる
いままでを捉え直す

目標の可視化
つなげる学習

なりたい自分
必要なこと
とりかかろう

Point! やってきたことを
仲間と語り始める!

増えやすい
問いを投げかける

友だち同士で
話す・解決することも大切

共感し
納得したい!

× 正しい答えを導き出すための問い

省察による学び育ち

過去

起きたことと振り返る

視野の広がりが

Q. キャリアパスポートの卒業後の活用事例は?

A. 事業所とのやり取りで使っている学校も!

目標

本人が持っているもの

まだまだ事例は少ない...

資料が増えたらEP巻...

知り知り
とすることが大事

【引用・参考文献】

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「本人主体の個別の教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」研究紀要第44・45集, 2018・2019
- (3) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」研究紀要第46・47集, 2020・2021
- (4) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～」研究紀要第48集, 2022
- (5) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～『生涯学習力』を高める授業づくりを通して～」研究紀要第49集, 2023
- (6) 菊地一文 (2021) 「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジアース教育新社
- (7) 文部科学省 (1981) 「生涯教育について（答申）」中央教育審議会
- (8) 文部科学省 (2010) 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
- (9) 文部科学省 (2010) 「特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理」
- (10) 文部科学省 (2012) 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」
- (11) 文部科学省 (2012) 「障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ）」
- (12) 文部科学省 (2016) 「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (13) 文部科学省 (2016) 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (14) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」
- (15) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (16) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (17) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- (18) 文部科学省 (2018) 「学校卒業後における障害者の学びの推進方策について（論点整理）」
- (19) 文部科学省 (2018) 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」
- (20) 文部科学省 (2018) 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」
- (21) 文部科学省 (2018) 「第3期教育振興基本計画」
- (22) 文部科学省 (2019) 「障害者活躍推進プラン～障害のある人の力を生かして未来を切り開くために必要な5つの政策プラン～」
- (23) 文部科学省 (2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について（通知）」
- (24) 文部科学省 (2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」
- (25) 文部科学省 (2020) 「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」
- (26) 文部科学省 (2021) 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」中央教育審議会
- (27) 高橋基裕 藤井慶博 (2020) 「当事者主体の個別の教育支援計画の実践とその効果に関する研究」発達障害研究：日本発達障害学会機関誌 / 日本発達障害学会 編 41(4)
- (28) 津田英二 (2023) 「生涯学習のインクルージョン -知的障害者がもたらす豊かな学び-」明石書店

あ と が き

本校は「生涯学習力」を研究で取り上げて、今年度で5年目となりました。今年度は、「生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり」を研究テーマに掲げ、「子どもの夢や願い」をどのように授業につなげるのか、どのように将来につなげていくのか、このことに焦点を当て取り組んできました。

「生涯にわたる豊かな学び」を考える際、私たちは「子どもの夢や願い」を基点にしたいと考えています。そのため授業づくりに当たっては、子どもの「思い」をくみ取りながら、教師間で子どもについて語り合い、そして授業デザインを練り合い日々授業実践を重ねてきました。各学部のさまざまな授業において見られる、子どもたちの生き生きと自ら取り組む姿。子どもたちの興味・関心が広がり、実に楽しそうに仲間と一緒に学んでいます。そのような姿や授業づくりの過程を見ていると、教師も志をもちチームで取り組んでいることが伝わってきます。これまで取り組んできた「私の応援計画」や「生涯学習力」を授業につなげるためには、教師間での継承が重要です。しかしながら単につなぐだけではなく、目の前の子どもと共に実践を繰り返し評価・改善しながら更に発展させていくことが求められます。私たちは、研究を通して「子どもの夢や願い、思い」「子ども主体」に常に立ち返り、一人一人と真摯に向き合ながら複数の目で検討することが肝要であると改めて確認できました。

また、今年度の研究では、卒業生にアンケートを実施したり、シンポジウムに参加してもらったりするなど、卒業生からも多くのことを学びました。卒業生の姿や「思い」を知ることが、学校の役割や学びについて継続的な時間軸で考えることの大切さを教えてくれました。

今の学びが、子どもたちの豊かな学びに確かにつながっているのか、また、つなげるためには何が大切なのか、今年度の研究を更に次年度へと継承し発展させるよう、今後も子どもたちや卒業生と共に学び続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、研究に御協力をいただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げますとともに、是非御高覧いただき本校の取組に対して忌憚のない御意見、御指導をいただけますようお願いいたします。

副校長 松井智子

研究同人（令和5年度）

校長	前原 和明	教諭	佐藤 美里
副校長	松井 智子	教諭	信田 智華子
教頭	宮野 俊実	教諭	樋渡 実由梨
主幹教諭	菊地 雄平	教諭	伊岡森 真由
教諭	小川 順子	教諭	越後 楓
教諭	鈴木 暢子	教諭	菅原 活
教諭	本多 勝成	教諭	武田 茜
教諭	下村 光行	教諭	保達 美智
教諭	高橋 浩樹	教諭	田中 智佳
教諭	後松 慎太郎	教諭	佐々木 蓮
教諭	池田 和馬	養護教諭	佐藤 麻衣子
教諭	山田 賢子	教育系スタッフ	吉田 みぎわ
教諭	藤原 佑介	教育系スタッフ	星川 翔矢
教諭	石成 舞	教育系スタッフ	平塚 達也
教諭	松尾 佑美	教育系スタッフ	武藤 海斗
教諭	今野 文龍	教育系スタッフ	今井 彩
教諭	森田 紗也子		

研究協力者（秋田大学）

武 田 篤
藤 井 慶 博
谷 村 佳 則
鈴 木 徹

秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第46号別冊
附属特別支援学校・令和5年度研究紀要 第50集

印刷・発行 令和6年3月
発 行 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
TEL 018-862-8583
FAX 018-862-8525
HP <http://www.sh.akita-u.ac.jp>
Mail fuyo@sh.akita-u.ac.jp
